

鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年記念誌

# 鳥取県日本歯科大学校友会会訓視」は、近月五次の



昭和初期の校友会総会の写真。初代会長平林秀高(前列左から2番目)先生を囲んで



昨年の総会での集合写真。宮﨑会長を囲んで。和気藹々は今も昔もかわらず。そしてこれからも…

# 目 次

鳥取県日本歯科大学校友会会訓

ごあいさつ 鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年 日本歯科大学校歌 鳥取県日本歯科大学校友会 略歴	鳥取県日本歯科大学校友会会長 記念祝賀会式次第	東京67回卒	宮崎	章······1 3 4 5
寄稿				
鳥取県校友会設立100周年を祝す				
	理事長・学長 日本歯科大学校友会会頭	〔 54回卒	中原	泉10
	周年を迎えられたことを心よりお慶び			,,,,
	日本歯科大学校友会会長	54回卒	近藤	勝洪12
ご祝辞				
	鳥取県歯科医師会会長		樋口壽	一郎14
鳥取県日本歯科大学校友会設立100周	年に思っこと 鳥取県日本歯科大学校友会会長	東京67回卒	宮﨑	章16
鳥取県日本歯科大学校友会設立100周		米尔07四平	百門	早10
MANA THE TIME TO A TO	鳥取県日本歯科大学校友会副会長	新潟68回卒	吉田	章二18
素晴らしきご縁をいただいて				
鳥	取県日本歯科大学校友会専務理事	東京84回卒	平林	律20
鳥取県日本歯科大学校友会設立100周				
·	取県日本歯科大学校友会常務理事	新潟84回卒	八幡	真司22
歴史ある鳥取県日本歯科大学校友会の	の一貝として - 鳥取県日本歯科大学校友会監事	新潟77回卒	今田	哲哉24
鳥取県日本歯科大学校友会設立百周年		初例715中	7 Ш	日以 2年
	取県日本歯科大学校友会顧問名誉会長	: 50回卒	林	伸伍26
鳥取県日本歯科大学校友会設立100周	年記念への祝辞			
	鳥取県日本歯科大学校友会	63回卒	伊藤	隼三34
近況報告				_
白斯田 口不比到上巡探十人现上100日	鳥取県日本歯科大学校友会	新潟69回卒	芹田	晃36
鳥取県日本歯科大学校友会設立100周	年に除して 鳥取県日本歯科大学校友会	東京92回卒	八帐	敏行38
鳥取県日本歯科大学校友会設立100周		水水200千	ノマ中田	典文[1] 50
	鳥取県日本歯科大学校友会	東京97回卒	伊藤	幸太40
鳥取県日本歯科大学校友会設立100周	年を祝して			
	鳥取県日本歯科大学校友会	東京99回卒	宮﨑	章太42
胚加砂结				
特別寄稿				
新作民藝運動の母 祖父吉田璋也	鳥取県日本歯科大学校友会副会長	新潟68回卒	吉田	章二44
鳥取県日本歯科大学校友会のつながり				46
Hobbyな人々 鳥取県版!				50
鳥取県日本歯科大学校友会100年の歴史				56
記念式典・記念祝賀会写真				76
祝辞、主催者ごあいさつ				82
編集後記				95

### 鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年記念式典、記念祝賀会参加者ご芳名(敬称略)

区分	大学名	ご	芳名	特記事項	役職 令和元年6月29日現在
本家(校士)		中原	泉	54	日本歯科大学理事長・学長 / 日本歯科大学校友会会頭
		近藤	勝洪	54	日本歯科大学校友会会長
	日本歯科大学	高橋	英登	66	日本歯科医師連盟会長
来賓(校友)	口平图科人子	横見	由貴夫	64	岡山県日本歯科大学校友会会長
来賓(他大学) 東京大阪朝日		森田	行雄	65	広島県日本歯科大学校友会会長
		吉田	敬	東京67	島根県日本歯科大学校友会会長
	愛知学院大学歯学部	渡部	隆夫	西部	鳥取県歯科医師会会長
	日本大学歯学部	樋口	壽一郎	中部	日本大学歯学部同窓会鳥取県支部長 / 日本歯科医師連盟監事
	東京歯科大学	田本	晃	西部	東京歯科大学同窓会鳥取県支部長
	大阪歯科大学	筧	哲郎	東部	大阪歯科大学同窓会鳥取県支部長
	朝日大学歯学部	岸野	優	東部	朝日大学歯学部同窓会鳥取県支部長
	松本歯科大学	石亀	裕通	中部	鳥取県中部歯科医師会会長 / 鳥取県歯科医師会監事
	奥羽大学歯学部	永見	輝生	西部	
東京自日本之神奈川		森脇	祥博	西部	鳥取県西部歯科医師会理事
	東京歯科大学	中尾	淳司	東部	CONT. Service Mill. Brief 1. I Brownish stage, sept. Mg.
	classaded LINA 3	西尾	卓	東部	全国歯科医師国民健康保険組合鳥取県支部監事
	日本大学歯学部		 、晃一	西部	鳥取県西部歯科医師会副会長
		太田	隆子	東部	WAS - No to Send His Book I. I Brook had you had you
	神奈川歯科大学	馬渕		東部	
		木村	清	西部	鳥取県西部歯科医師会監事
	松本歯科大学	堀内		東部	為从不口即图代於即五曲事
		道田	 章仁	東部	愛知学院大学歯学部同窓会鳥取県支部副支部長
<b>小上兴山 白.老</b>					<b>发</b> 双子院入子圈子 <b>即</b> 问总云扁 <b>以宗又</b> 即副又即女
朝	愛知学院大学歯学部	宮田	弘子	東部	
			志保子	東部	
	+0	福田	孝司	東部	
	朝日大学歯学部	石田	雅栄	東部	
	大阪大学歯学部	稲垣	彰重	東部	
	大阪歯科大学	中村	茂幸	東部	
	1 1117644 1 274	松本	修司	東部	
	九州歯科大学	戸﨑	正悟	東部	
	九州大学歯学部	増田	朋和	東部	
	福岡歯科大学	山形		東部	
		福島	光洋	中部	
		宮﨑	章	東京67	会長 / 本部評議員
	i 日本歯科大学	吉田	章二	新潟68	副会長
		平林	律	東京84	専務理事 / 歯学会評議員 全国歯科医師国民健康保険組合鳥取県支部理
		八幡	真司	新潟84	常務理事
		今田	哲哉	新潟77	監事
鳥取県校友会会員		林	伸伍	50	顧問 / 名誉会長
		伊藤	隼三	63	
		芹田	晃	新潟69	
		廣田	吉明	新潟69	鳥取県歯科医師会副会長
		林	篤志	新潟79	
		八幡	敏行	東京92	
		伊藤	幸太	東京97	
		宮﨑	章太	東京99	
		合計	├46名		他大学の先生方は所属地区(東部、中部、西部)を表記 数字:卒会 67回以降は東京、新潟を表記

# 鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年記念式典、 記念祝賀会に際し、ご祝電を賜りました皆様

(数字は卒回)

公益社団法人 日本歯科医師会 会長 堀 憲郎 様 (68)

全国歯科医師国民健康保険組合 理事長 三塚 憲二 様 (60)

岡山県日本歯科大学校友会 会長 横見 由貴夫 様 (64)

広島県日本歯科大学校友会 会長 森田 行雄 様(65) はじめ役員一同様

東京医科歯科大学歯科同窓会鳥取支部 田本 寛光 様

朝日大学歯学部同窓会鳥取県支部 支部長 岸野 優 様

株式会社サンライズデンタル 代表取締役 宮脇 誠一 様

株式会社玉井歯科商店 代表取締役社長 玉井 誠一 様

株式会社玉井歯科商店 松江店 店長 松本 充史 様

株式会社玉井歯科商店 鳥取営業所 所長 石原 惇也 様

ありがとうございました。

### ごあいさつ



### 鳥取県日本歯科大学校友会 会長 東京67回卒 宮﨑 章

このたびは、鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年記念式典ならびに祝賀会を挙行するにあたり日本歯科大学校友会会頭、中原泉先生をはじめ多くの先生方にご臨席ならびに記念誌の刊行にあたりましても多大なご尽力を賜り、心より御礼申し上げます。

鳥取県日本歯科大学校友会は、全国的にみても小規模の校友会でございますが、このたび歴史編纂のため各資料を拝見し、校友会の先輩方の足跡を辿ってまいりますと本当に頭の下がる思いがいたします。

大正4年にご卒業された本県最初の卒業生の平林秀高先生(4回卒)が、大正8年(1919年)に郷里の米子市にて歯科診療所をご開業されました。その年を記念して平林秀高先生を会祖とし、鳥取県日本歯科大学校友会の設立年と制定することを、昨年の総会にて、全会一致で決定いたしました。

実際に校友会の活動が記録されているのは、昭和26年(1951年)に6名程の会員で初代会長は平林秀高先生でした。その当時は、新年会を兼ねた総会を1月に開催していたようです。その前の記録を精査しようとしたところ、残念ながら昭和27年(1952年)の鳥取大火の折、焼失もしくは亡失したことを林伸伍先生より伺い、その後の先生の言い伝えにより大体の記録が判明し、このたび中原会頭からいただきました原稿に詳細が記されており、皆で喜んだものでございます。

その後、2代目会長に田村威先生(25回卒)、3代目会長に八百谷一洋先生(39回卒)、4代目会長に上村貞先生(35回卒)、5代目会長に清水博先生(41回卒)、そして6代目会長に林伸伍先生(50回卒)が就任され、一昨年、私が第7代目会長に就任し現在に至っております。

現在、日本歯科大学校友会の会員数は全国で9000名弱でありますが、その中で本県校友会員数は わずか19名しかおりません。しかし、その数少ない校友の中で特筆すべき先生は、初代会長の平 林先生と6代目会長の林先生であります。平林先生は、鳥取県歯科医師会黎明期の2代目の県歯会 長を務められ、林先生は、平成5年から平成23年までの18年の長きにわたり、10代目の県歯会長 を務められました。

特に、林先生は県歯会長として類稀なるリーダーシップを発揮され、県内はもとより中央においても「鳥取県に林あり」とうたわれたほどのご活躍をされました。校友会会長としても、36年の長きにわたり、我々をご指導いただき誠に感謝の念にたえません。その多大なる功績があってこそ歯科医師会だけではなく、本県校友会を発展させたのではないかと感じております。

我々後輩一同は、諸先輩方の偉大な足跡に心より深甚なる敬意を払うと同時に感謝いたします。 私の使命として在任中に鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年を迎えるにあたりまして、この記念すべき節目を祝い、母校である日本歯科大学の卒業生であることを誇りとし、次の世代を担う後輩たちに輝かしい歴史を知っていただき、記憶していただきたい。そして、設立以来の会訓である親睦と相互扶助の精神で、仲睦まじく次の100年の歴史を紡いでいただきたいとの一心で、このたび記念式典、記念祝賀会の挙行ならびに記念誌の発刊の運びとなりました。

最後に、母校である日本歯科大学ならびに鳥取県日本歯科大学校友会の益々の発展を祈念いたします。



創立80周年(1986年)より使用した旧校友会旗



校友会員の誇りの証である校友会バッジ

### 鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年記念式典・記念祝賀会 式次第

令和元年6月29日(土) ホテルニューオータニ鳥取 鳳凰西の間

司会進行 鳥取県日本歯科大学校友会 専務理事 平林 律

- 1、開会の辞 鳥取県日本歯科大学校友会 副会長 吉田 章二
- 2、主催者挨拶 鳥取県日本歯科大学校友会 会長 宮崎 章
- 3、校歌斉唱
- 4、物故者弔意黙祷
- 5、来賓挨拶

日本歯科大学校友会 会頭 中原 泉

日本歯科大学校友会 会長 近藤 勝洪

日本歯科医師連盟 会長 高橋 英登

鳥取県歯科医師会 会長 渡部 隆夫

日本大学歯学部同窓会鳥取県支部 支部長 樋口 壽一郎

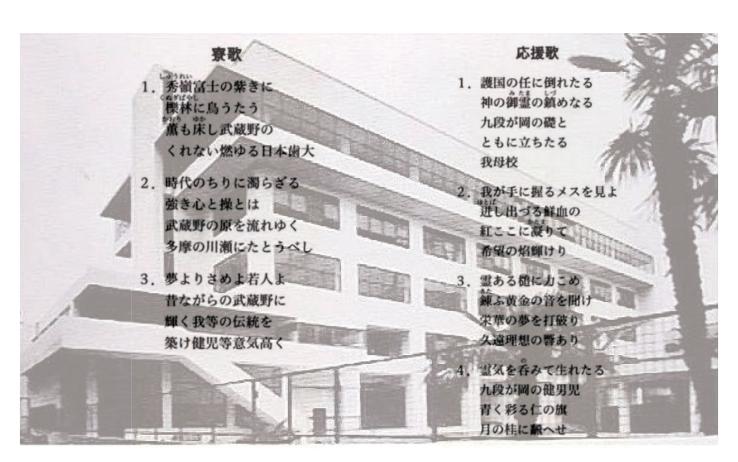
東京歯科大学同窓会鳥取県支部 支部長 田本 晃

- 6、来賓紹介 鳥取県日本歯科大学校友会 専務理事 平林 律
- 7、 鳥取県日本歯科大学校友会会員紹介 鳥取県日本歯科大学校友会 専務理事 平林 律
- 8、祝電披露
- 9、 鳥取県日本歯科大学校友会のあゆみ 鳥取県日本歯科大学校友会 専務理事 平林 律
- 10、乾杯 岡山県日本歯科大学校友会 会長 横見 由貴夫
- 11、歓談
- 12、表彰
- 13、謝辞 鳥取県日本歯科大学校友会 顧問 林 伸伍
- 14、万歳三唱 広島県日本歯科大学校友会 会長 森田 行雄
- 15、閉会の辞 鳥取県日本歯科大学校友会 常務理事 八幡 真司

(敬称略)



1965年 大学全景



旧 日本歯科医学専門学校付属病院 1934年竣工 設計 山口 文象

# 鳥取県日本歯科大学校友会 略歴

### 歴代校友会会長



初代会長 平林 秀高 (4回卒) 1919~1954

2代会長 田村 威 (25回卒) 1954~1969

3代会長 八百谷一洋 (39回卒) 1969~1973

4代会長 上村 貞 (35回卒) 1973~1977

5代会長 清水 博(41回卒) 1977~1981

6代会長 林 伸伍 (50回卒) 1981~2017

7代会長 宮崎 章 (東京67回卒) 2017~現在

### 鳥取県歯科医師会会長経験者



2代会長 平林 秀高(4回卒) 1951~1953



6代会長 清水 正史(38回卒) 1967~1968



10代会長 林 伸伍(50回卒) 1993~2011

明治42年(1909年)6月6日 日本歯科大学校友会(当時 私立共立歯科医学校)発足

大正4年 (1915年)本県最初の卒業生 故 平林 秀高(当時 私立日本歯科医学校)卒業

大正8年 (1919年) 平林 秀高 米子市にて開業 これを本県校友会設立年度とする

昭和29年まで初代会長を務める

昭和26年(1951年)平林 秀高 第2代鳥取県歯科医師会長に就任(昭和28年まで)

昭和29年(1954年)田村 威第2代校友会会長に就任

昭和42年(1967年)清水 正史 第6代鳥取県歯科医師会会長就任 (昭和43年まで)

昭和44年(1969年)八百谷一洋 第3代校友会会長に就任

昭和48年(1973年)上村 貞 第4代校友会会長に就任

昭和52年(1977年)清水 博 第5代校友会会長に就任

昭和54年(1979年)林 伸伍 初代鳥取県東部歯科医師会長に就任(昭和60年まで)

昭和56年(1981年) 林 伸伍 第6代校友会会長に就任

昭和60年(1985年)八百谷 一洋 第2代鳥取県東部歯科医師会長に就任(平成元年まで)

平成3年 (1991年) 清水 博 第4代鳥取県東部歯科医師会長に就任(平成9年まで)

平成5年 (1993年) 林 伸伍 第10代鳥取県歯科医師会長に就任(平成23年まで)

平成9年 (1997年) 林 矗昶 第5代鳥取県東部歯科医師会長に就任(平成15年まで)

平成26年(2014年) 宮﨑 章 校友会本部中国地区理事就任(平成28年まで)

平成28年(2016年) 宮崎 章 校友会本部副会長に就任(令和元年まで)

平成29年(2017年)第7代校友会会長に宮崎 章 が就任 現在に至る

### 卒業生数:43名 うち物故者:18名 現会員数:19名 未入会:6名

校友会員数 19名 (東京 8名 新潟 11名) (東:東部 11名 中:中部 2名 西:西部 6名)

八百谷 一洋 (東 39) 林 伸伍 (東 50) 伊藤 隼三 (西 63) 宮﨑 章 (東67) 吉田 章二 (東 68※) 芹田 晃 (西 69※) 廣田 吉明 (東 69※) 清水 恵子 (東 70※) 平林 洋 (西 73※) 今田 哲哉 (東 77※) 南場 美弥 (中 77※) 林 篤志 (東 79※) 王 秀樹 (中 82※) 平林 律 (西 84) 八幡 真司 (東 84※) 水口 好胤 (東 85※) 八幡 敏行 (西 92) 伊藤 幸太 (西 97) 宮﨑 章太 (東 99) (※は新潟)

物故会員数 18名 (東京 17名 新潟 1名) (東:東部 14名 中:中部 1名 西:西部 3名)

平林 秀高 (西 4) 野谷 昌俊 (中 6) 伊藤 丈平 (8) 岸本 卓志 (東 8) 森井 立吾 (東 12) 平井 萬亀雄 (東 18) 林 義勝 (東 19) 酒井 信孝 (東 21) 堀 慶輔 (東 23) 田村 威 (東 25) 今田 晴隆 (東 32) 上村 貞 (東 35) 平林 克之 (西 35) 清水 正史 (東 38) 清水 博 (東 41) 林 矗昶 (東 58) 山口 春美 (西 67) 清水 敦也 (東 68%) (※は新潟)

### 叙位、叙勲、褒章、大臣、知事等表彰受賞者 平成28年3月31日現在 (※は新潟)

### 叙位・叙勲

平成17年 4月 清水 博 (41) 瑞宝双光章 平成17年11月 八百谷一洋 (39) 旭日双光章

### 褒章

平成 8年 4月 林 伸伍(50)藍綬褒章

### 厚生大臣・厚生労働大臣表彰

昭和51年11月 岸本 卓史(8)

平成 3年11月 林 伸伍(50) 歯科保健事業功労

平成 7年10月 林 - 矗昶(58) 歯科保健事業功労

平成11年10月 清水 博 (41) 国民健康保険事業功労

 平成21年11月 廣田 吉明(69%) 歯科保健事業功労

### 文部大臣・文部科学大臣表彰

昭和56年11月 今田 晴隆 (32) 学校保健功労 昭和62年10月 八百谷一洋 (39) 学校保健功労 平成 3年11月 清水 博 (41) 学校保健功労

### 鳥取県知事表彰

昭和52年 1月 今田 晴隆(32)地域医療功労(歯科医師会50周年)昭和58年 6月 林 伸伍(50)地域医療功労(歯科衛生士学院20周年)昭和63年 1月 林 矗昶(58)地域医療功労(新制歯科医師会40周年)昭和63年 7月 清水 博(41)国民健康保険事業功労(国民健康保険施行50周年)

### 鳥取県歯科医師会名誉会員

昭和45年3月29日承認 平林 秀高(4)

### 校友の鳥取県歯科医師会役員就任の歴史

昭和26年 平林 秀高 会長就任 昭和28年まで 昭和28年 田村 威 理事就任 昭和34年まで 昭和42年 清水 正史 会長就任 昭和43年まで 昭和42年 平林 克之 副会長就任 昭和43年まで 昭和43年 今田 晴隆 理事就任 昭和44年まで 昭和44年 林 伸伍 常務理事就任 昭和48年まで 昭和46年 八百谷一洋 理事就任 昭和58年まで 昭和48年 今田 晴隆 常務理事就任 昭和50年まで 昭和48年 林 伸伍 理事就任 昭和50年まで 昭和50年 林 伸伍 専務理事就任 平成5年まで 昭和62年まで 昭和54年 清水 博 監事就任 昭和58年まで 昭和58年 八百谷一洋 監事就任 昭和60年まで 昭和58年 清水 博 理事就任 昭和60年まで 昭和60年 八百谷一洋 理事就任 平成3年まで 昭和60年 清水 博 監事就任 昭和62年まで 平成9年まで 昭和62年 清水 博 理事就任 平成 元年 林 - 矗昶 理事就任 平成6年まで 平成 3年 八百谷一洋 監事就任 平成9年まで 平成23年まで 平成 5年 林 伸伍 会長就任 平成 9年 清水 博 監事就任 平成12年まで 平成 9年 宮崎 章 理事就任 平成15年まで 平成13年 廣田 吉明 理事就任 平成19年まで 平成15年 宮﨑 章 常務理事就任 平成17年まで

平成19年 廣田 吉明専務理事就任平成23年まで平成23年 宮崎 章 監事就任平成24年まで平成23年 廣田 吉明 副会長就任現在に至る

### 鳥取県日本歯科大学校友会役員(※は新潟)(東: 東部 西: 西部)令和元年7月より

 会長(本部評議員)
 宮崎章(東67)

 副会長
 吉田章二(東68%)

 専務理事(歯学会評議員)
 平林律(西84)

 常務理事
 八幡真司(東84%)

 監事
 今田哲哉(東77%)

 顧問名誉会長
 林伸伍(東50)



参考文献 : 日本歯科医師会 創立110周年記念誌

: 日本歯科大学 創立110周年記念誌

: 鳥取県歯科医師会 創立100周年記念誌

: 鳥取県中部歯科医師会 50周年記念号

:鳥取県西部歯科医師会史【伯耆に生きる歯科医師たち】

参考資料 :日本歯科大学校友会 会員名簿

# **寄稿** (数字は卒業回数。67回以降は東京、新潟を表記)

鳥取県校友会設立100周年を祝す

日本歯科大学理事長・学長 日本歯科大学校友会会頭 中原 泉 54

鳥取県日本歯科大学校友会が設立100周年を迎えられたことを 心よりお慶び申し上げます。

ご祝辞

日本歯科大学校友会会長 近藤 勝洪 54

鳥取県歯科医師会会長 樋口 壽一郎

鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年に思うこと

鳥取県日本歯科大学校友会会長 宮﨑 章 東京67

鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年を祝す

鳥取県日本歯科大学校友会副会長 吉田 章二 新潟68

素晴らしきご縁をいただいて

鳥取県日本歯科大学校友会専務理事 平林 律 東京84

鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年にあたり

鳥取県日本歯科大学校友会常務理事 八幡 真司 新潟84

歴史ある鳥取県日本歯科大学校友会の一員として

鳥取県日本歯科大学校友会監事 今田 哲哉 新潟77

鳥取県日本歯科大学校友会設立百周年にあたって

鳥取県日本歯科大学校友会顧問名誉会長 林 伸伍 50

鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年記念への祝辞

鳥取県日本歯科大学校友会 伊藤 隼三 63

近況報告

鳥取県日本歯科大学校友会 芹田 晃 新潟69

鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年に際し

鳥取県日本歯科大学校友会 八幡 敏行 東京92

鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年によせて

鳥取県日本歯科大学校友会 伊藤 幸太 東京97

鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年を祝して

鳥取県日本歯科大学校友会 宮崎 章太 東京99

特別寄稿 新作民藝運動の母 祖父吉田璋也

鳥取県日本歯科大学校友会副会長 吉田 章二 新潟68

(敬称略)

# 鳥取県校友会設立100周年を祝す



# 日本歯科大学学長 中原 泉

鳥取というと、若いころ観た砂丘と、学生時代の先輩の林伸伍先生が浮かびます。鳥取を 訪れる機会は、2度ほどだったでしょうか。

ことし鳥取県校友会設立100周年記念のご案内をいただき、貴県の校友会史を調べてみました。古い資料によると、本学の第1回卒業生が出た明治42年(1909)には、鳥取市の歯科医師は1名、郡部4名で、いずれも検定試験で免許をうけた方々でした。

それから10年後の大正8年(1919)に、貴校友会が設立されました。初代会長は平林秀 髙先生(4回卒)で、中原實名誉学長と同期です。毎年、新年を兼ねて総会を開催された そうです。

約20年後の昭和13年(1938)には、会長は先の平林先生、会員は野谷昌俊(6)伊藤丈平(8)岸本卓志(8)森井立吾(12)平井萬亀雄(18)林義勝(19)堀慶輔(23)田村威(25)の先生方でした。

それから30年後の昭和43年(1968)は、田村威会長、岸本卓志、林義勝、酒井信孝(21) 今田晴隆(32)上村貞(35)平林克之(35)清水正史(38)八百谷一洋(39)清水博 (41) 林伸伍(50)の先生方で、このころには30回台に若返っています。

そして本学校友会編纂の日本歯科大学110周年記念誌(2016)によると、田村先生のあ と、会長は八百谷一洋、上村貞、清水博、林伸伍の先生方に継承されています。この年の 会員数は18名とのことでした。

近年、貴会会員は20名を前後していると仄聞しますが、会員少数県のご苦労を拝察いたします。それでも、貴会が営々と活動を重ねられて、100周年を迎えられたことは、ひとえに代々の先生方の愛校心と努力に由るものと存じます。先生方の結束は私ども母校の誇りであり、また全国に校友を配する本学校友会の励みであります。





中原学長が館長を務める新潟生命歯学部内にある医の博物館



新潟歯学部の設立準備に奔走されていた頃の写真(前列中央)









文学を愛し中原泉(いずみ)のペンネームで多数の著書を出版されています。学生時代は新聞部 に所属し、林伸伍先生と共に日本歯科大学新聞の編集に携わりました。

# 鳥取県日本歯科大学校友会が設立100周年を迎えられた ことを心よりお慶び申し上げます。



# 日本歯科大学校友会 会長近藤 勝洪

中原市五郎先生によって母校が1907年(明治40年)6月1日に創立されて間もない1909年(明治42年)10月3日に、日本歯科大学校友会は発会式を挙行し、母校とともに歩み続け、母校の創立記念日を節目ごとにお祝いしてきました。鳥取県日本歯科大学校友会が1919年(大正8年)に設立されたことは、校友会本部設立から10年後ということになります。元号が平成から令和に変わった記念すべき年に100周年を迎えることは、偶然とはいえ、感無量です。

大正、昭和、平成と戦争や大災害がわが国を襲いましたが、母校は度重なる震災にも関わらず発展を続けています。国民の健康を維持増進するために最も重要なものとして、歯科保健・医療の充実があることを疑う人はなく、健康寿命の延伸にとって必要性は増すばかりです。 国民皆保険体制を堅持するわが国の医療保険制度は、大きな曲がり角に来ていると言われます。 団塊の世代が75歳以上となる2022年から後期高齢者が急増し、団塊の世代がすべて75歳以上となる2025年以降は後期高齢者が減らず、一方で、75歳未満の人口は毎年1%程度の減少を続ける結果、若年者によって医療給付額が大きい高齢者を支え続けることができるのか懸念されています。

日本歯科大学は、令和元年6月1日、創立113周年記念式典を開催します。「自主独立」の建学の精神の下、わが国で最も長い歴史と伝統を誇り、世界最大の教育・研究機関としての役割を果たし続けていくことでしょう。校友会は、母校に寄り添い、母校とともに歩み続けていきます。

鳥取県日本歯科大学校友会は、多くの優れた人材を輩出し、校友会本部の運営についても常に 大きな支援をいただいてきました。これからも校友会本部とともに発展を続けていくことは間違 いありません。校友会は、他大学の同窓会と異なり、自らの意思で入会した卒業生により組織さ れていますので強固な団結力を誇っています。

鳥取県校友会の歴史は、母校の歴史と共にあり、先輩諸氏の大きな努力が100年の歴史を築いて きたことは疑いありません。今後のさらなる飛躍を期待いたします。





中原会頭とともに校友会のトップとして全国各地を周り校友会の活性化に尽力されています。

### ご祝辞



# 一般社団法人鳥取県歯科医師会会長 樋口壽一郎

この度、鳥取県日本歯科大学校友会に於かれましては大正8年(1919年)に産声を挙げられて 以来本年で設立100周年を迎えられましたことに対し宮﨑章会長をはじめ多くの会員の皆様に鳥取 県歯科医師会を代表致しまして心よりお祝いを申し上げます。

貴校が創立されましたのは1907年と聞き及んでおりますが、その後間もない期間に於いて鳥取県という遠く離れた地で、交通手段・情報伝達に於いて何かと不便であった時代の中、貴校友会を立ち上げられましたことは、大学本部校友会が強い理念とリーダーシップを持って、日本国民の健康を守るべく全国各地で診療に従事している校友会員に対し、開業歯科医の基盤となる学術面・テクニカル面を含めた新しい情報提供および業権確保に向けた様々な課題についてサポートしながら、ある種、家族的な関係・絆を大切に維持することが、より歯科界の充実・発展を推し進める上で最良であるとした「先見の明」があってのことであり心より敬意を表する次第であります。

大正4年に創立致しました鳥取県歯科医師会は12名で発足していますが、全国歯科大学創立の歴史を見るといかに日本歯科大学出身者を中心としたご尽力があって誕生したものかは明白であり、鳥取県歯科医師会の創立にむけての体力の源泉であったものと考えています。

日本歯科医師会が115年、鳥取県歯科医師会が103年の時を刻む中で全国・鳥取県の日本歯科大学校友会の先生方が果たされた役割、実践された行動が今日の歯科医師会を牽引されたことは歴代の日本歯科医師会・日本歯科医師連盟・日本歯科医学会の会長を数多く輩出されており、現在の3団体のトップリーダーは日本歯科大学出身であり、そのことを確固として物語っています。

今、国民の皆様より「体の健康には歯が大事」ということを広くご理解を頂き健康寿命の延伸に向けた歯科の役割が更に求められている中、残念ながら次世代を担う若い先生方の組織離れが大きな問題点としてその対応が求められています。その解決に向けた大きな柱の1つを歯科大学校友会・同窓会の役割として位置づけ、各大学が現状認識を共有して対処すべきであり、地方の時代と言われる中で伝統校としての鳥取県日本歯科大学校友会の果たす役割は大きいものと考えています。

終わりにあたり設立100周年を迎えられた鳥取県日本歯科大学校友会の今後益々のご隆盛と校 友会会員の皆様のご健勝を祈念申し上げご祝辞とさせて頂きます。





昭和初期の鳥取県歯科医師会の記念式典における集合写真

# 鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年に思うこと



### 鳥取県日本歯科大学校友会 会長 東京67回卒 宮﨑 章

私が歯科医師になってもう41年になります。日本歯科大学に入学したのは新潟校が増設され2校体制になった最初の年の昭和47年でした。その入学試験の面接日に、なんとあさま山荘事件が起こり、日本中が大騒ぎでした。私はテレビに釘づけになりましたが、面接に行かねばならず、後ろ髪を引かれる思いで会場に向かったのを今でも覚えています。

幸い合格し、大変感激いたしました。入学後何か部活動をと思いいろいろ部室を回りました。今はどうなっているかわかりませんが、私の頃は今の体育館(当時としては超近代的な総ガラス張りのしゃれた建物で、田舎者の私はびっくりしたものです。)の上の階にズラッと部室が並んでました。そのときどなたかわかりませんが、よかったら中に入ってみないかと誘われました。中に入ってみると、ある方がリュックサックの手入れをされていて、やがてその部屋がワンダーフォーゲル部であることがわかりました。

入部してからのご縁で、現在ご活躍の日本歯科医師連盟会長の高橋英登先生をはじめ、1学年下に 元生命歯学部長、附属病院長の羽村章先生、元日本歯科医師会常務理事の倉治ななえ先生等の 全国区の先生方、また同期の大親友である現島根県日本歯科大学校友会会長の吉田敬先生と共に 学生時代山の中で一緒に過ごせたことを懐かしく、そして大変誇りに思っています。

6年間で何とか卒業し、国家試験も無事合格し、神楽坂の歯科医院に1年ほど勤務した後帰鳥しました。そして学生時代より何かとお世話になり校友会で唯一面識のある林伸伍先生(50回)にご挨拶に伺ったところ「私の弟のところで働いてみないか」と云われ林矗昶先生(58回)をご紹介して頂きました。2年間勤務させて頂き、歯科医師としての姿勢を教わり、ゴルフなどもよく連れていって頂きました。本当に優しい先生で家族同然にかわいがって頂きました。

その後、歯科医師会の役職を拝命し、県歯では林伸伍会長のもとで同期の山口春美先生をはじめ後輩の吉田章二先生(68回)、廣田吉明先生(69回)ら同世代と共に読む、書く、聞く、話す、闘う?ことを徹底してご指導を仰ぎ、鍛えられ不撓不屈の精神を養いました。地区では東部歯科医師会林矗昶会長のもとで親睦の大切さと競馬と麻雀の面白さと奥深さをしっかりと教えていただきました。

このように20年くらい前は県歯、地区歯科医師会とも校友の先生が多くの役職を担っておりました。当時の校友会員数は今も変わりはないのですが、諸先輩方に対して敬意を表するとともに誇

りに思っています。

校友会は、林伸伍先生が昭和56年から平成29年まで実に36年間の長きにわたり会長を務められました。校友会は人数こそ少ないのですが、親睦と相互扶助を第一義として、世代を越え、皆大変仲が良く笑いが絶えない会であります。その中でも八百谷一洋先生(39回)の存在は大きく、人情味のある先生で、皆に絶えず気を配って会を盛り上げて下さいました。

このような伝統のある和気藹々とした校友会のリーダーであった林伸伍先生の後任として、2年前より第7代目会長に就任させていただきました。未熟者でありますが、諸先輩方が築かれた、設立100周年を迎える伝統ある校友会の名を損ねないよう現執行部、常に前向きな副会長の吉田章二先生(68回)、校友会史上最強の専務理事の平林律先生(84回)、やりくり上手で責任感の強い常務理事の八幡真司先生(84回)いつも朗らかな総務担当理事の今田哲哉先生(77回)の5名で何とか頑張って次の世代にバトンを渡したいとおもいます。地はよし九段富士見原、名はよし天下に冠たる日本歯科大学の精神をしっかり引き継いで行く所存でございます。今後とも何卒宜しくお願いいたします。



何の変哲も無い山での集合写真だが今思えば奇跡の1枚!後列右端 羽村章 前生命歯学部長、2番目 高橋英登 連盟会長、前列右端 倉治ななえ 前日歯常務理事、左端のメガネをかけている人物が 吉田敬 島根県校友会長、後列中央のオレンジのシャツの長髪の人物が私です。

# 鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年を祝す



### 鳥取県日本歯科大学校友会 副会長 新潟68回卒 吉田 章二

私が日本歯科大学に入学したのは、新潟校設立2年目の昭和48年でした。祖父が新潟医専卒業で、祖母は新潟県新発田市の出身でしたので、何かの縁を感じました。母は新潟で生まれたので、入学式の日に白山公園を懐かしそうに歩いていたのが印象的でした。

大学は設立2年目で、先輩も1学年だけという最初は寂しい感じもありましたが、皆が親しくなれた落ち着いた環境で6年間学びました。学生時代は硬式テニス部に入部しました。経験者の同級生に教えてもらい、初心者の下手な選手でした。東京校テニス部と夏休みに山中湖で合同合宿したり、5月には東京校との運動部の合同合宿があり、楽しい交流でした。中国地方の出身者は少なく、鳥取に帰り「中国5県役員連絡協議会」で、東京校出身の硬式テニス部の先輩の広島県日本歯科大学校友会副会長の椿田直也先生(67回)にお会いでき久しぶりの再会を嬉しく思いました。

昭和57年帰鳥し、祖父と両親の吉田医院の横で開業いたしました。まずは、当時の校友会会長の林伸伍先生(50回、以下伸伍先生)にご挨拶に伺いました。初対面で大変緊張していたのですが、「吉田君。野球はやったことがあるか?」と質問されたのが印象的でした。野球が大変お好きで、毎年8月に「会員フェスティバル」という県歯主催の会員親睦会が開催され、東部、中部、西部の3地区で対抗試合があります。下手ながら東部の選手として参加しました。校友では、伸伍先生、林矗昶先生(58回)、宮崎章先生(67回)が東部の選手でした。伸伍先生は、引退されるまで40年以上現役選手であったと思います。空手、ゴルフと体の鍛錬は見事なものだと感服いたします。

開業時、東部歯科医師会は昭和54年に市と郡部とが合併した新組織で活動をしており、県歯は昭和57年新歯科医師会館が竣工したばかりでした。その中で校友会の諸先輩方が中心となり会務の重要な役をこなされていました。東部、県歯科医師会の役員履歴には校友の多数の先生方のお名前を見ることができ、地域への貢献をしっかり果たされてきたと尊敬致します。

私も少しの役につきましたが、その中でも県歯の広報部に所属していた時、記事、原稿の書き方では伸伍先生にかなりご指導を受けました。伸伍先生は、学生時代に新聞を発行されたり、漢詩を書かれるくらいの堪能な文才をお持ちで、言葉遣いについても勉強させていただきました。

私事ですが、医師でありながら民藝運動家の祖父璋也が作り上げた「鳥取民藝美術館」「たくみ 工芸店」「たくみ割烹店」を継承、維持する活動を40年近く続け、現在は鳥取民藝館長の任につ いています。文化運動は、時代の変遷と共に現在と未来を見据えながら、その本質を見過ごさな いように遂行していかねばなりません。共に活動してくださる方々のご助力には感謝いたしており ます。事業展開には経済力が必要ですし、人の問題と共に悩ましいところです。

幸い、ここ最近新しい民藝の風を感じています。日本人のクオリーティーオブライフに民藝の持つ 心が理解されてきたのでしょう。行政の前片山知事、現平井知事からもご支援を頂いております。 歯科医師として健康に留意しながら、本業と民藝の両方で頑張っていきたい所存です。

鳥取県校友会は少人数ですが、後輩の先生方とともに地域医療と校友会活動にお役に立ちたいと 存じます。



硬式テニス部の仲良しメンバーと共に右から2番目が私。髪型が時代を感じさせる1枚。

# 素晴らしきご縁をいただいて



### 鳥取県日本歯科大学校友会 専務理事 東京84回卒 平林 律

私が、平成最初の新入生として満開の桜の中、母校の門をくぐってからはや31年になります。 在学中の6年間は、硬式野球部に所属し、野球よりも酒を飲むことを鍛えられ、理不尽なことが 世の中だと達観できる頃に歯科医師となりました。

30歳の時、米子市出身の妻と結婚し、本当は都内で開業している父親(55回)の歯科医院を継承する予定でしたが、紆余曲折の末、米子市で開業することとなりました。東京歯科大学、日本大学(歯、松戸歯)、本学(東京、新潟)の3校は、特に全国都道府県単位で校友会(同窓会)組織を持ち、偉大なる先達たちが斯界でご活躍のことは言うまでもありませんが、今から16年前の夏に歯科医師会、校友会入会の折、身重の妻とともに硬式野球部の大先輩でもある林伸伍先生(50回)をはじめ諸先輩方にご挨拶の機会をいただきました。

その中でも、県歯会長在任中の林先生の出会いは、大柄な先生が西日を浴びながらさらにひとき わ大きく見えたこと、そして、初対面の私達夫婦に対して紳士的に接していただき、特に妻には 愛情あふれるお言葉を頂戴したことは、今でも夫婦共々一生忘れられない思い出として残って います。そして「任せなさい」のひとことでいつも助けていただきました。

入会当初は、林先生をはじめ多数の先輩たちが歯科医師会の要職を務め、大きな傘の下で慣れない異郷の地で本業に邁進することができ、そして事あるごとに面倒を見ていただき、この場をお借りして心より感謝申し上げる次第です。30代後半より全国歯理事、県歯委員、校友会理事などにお引き立ていただき、見聞を広め、見識を深めながら先輩方のご活躍を身近で拝見する機会に恵まれたことは、今でも変えがたい有形無形の財産となっています。

また、硬式野球の経験があったため、歯科医師会での野球も林先生とご一緒させていただきました。10年前くらいに米子市の湊山球場で軟球にもかかわらず場外を含む2本のホームランを放ったことは一生分のツキを使い果たしたくらいの衝撃的な奇跡の体験をいたしました。

奇遇にも、在学中は東京新潟で面識はございませんでしたが、同級生の八幡真司先生との出会いがあり、10数年後輩のいない中で二人で明るく下積み時代を過ごし、弥生町界隈で酒を酌み交わしたことは本当に楽しい思い出でした。地縁のない私には本当にありがたい存在でございます。

一昨年、宮﨑章先生(67回)が会長に就任された時に、若輩ながら専務理事を拝命し、会長の卓越した指導力のもと実務全般を担当させていただき、中国地区役員連絡協議会、中国地区歯学研

修会の二つの行事を、勇退された林先生の大きな穴を埋めるべく、当番県の重責を皆で一致団結 し、果たすことができたことは、改めて会員の先生方の固い結束力を示すこととして、本当に煩 雑且つ難易度の高い事業ではありましたが、少人数ながら本校友会の存在を他県に示すことがで きたことを誇りに思います。

専務理事を拝命して以来、「人を支え、人を繋ぐ」を信条として、また中道のスタンスで非才ながら務めさせていただきまして、出来不出来は別として、まずは1期2年の任期を全うすることができたことはこの駄文をご覧いただいている方々は言うまでもありませんが、皆様との素晴らしきご縁の中で沢山の貴重な経験を積み、財産を得ることができました。

今回は、鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年の歴史編纂と祝賀会の準備委員長という重責を担う中で、改めて校友会の歴史を認識し、過去の会報や資料などを拝見する中で、先達の偉業を再確認させていただきました。改めて本会の末席に名を連ねることができましたこと心より感謝する次第です。

大学の建学の精神である「自主独立」に倣い、個性豊かな会員の先生方、そして強固な結束力により今までは栄光に彩られた誇り高き100年でありました。これは数多の歴史の中で先人達により連綿と培われた伝統と文化が結実したものですが、これからの100年はどんな校友会になるのか?未来は誰も知る由もありませんが、改めて会員の先生方が個の力を醸成し、それを衆として結集すればさらに素晴らしい校友会になること、そして鳥取県日本歯科大学校友会が、本県校友達の今後更なる心の拠り所になることを信じてやみません。

今後も、弛まず本校友会の発展と活性化に微力ながら力を尽くしてまいりたいと考えています。



自他共に認める東京校の看板クラブでしたが幹部時代は部員も少なく、最弱の世代でした。野球の方ははさっぱりでしたが野球部はしっかり?美味しいお酒と素晴らしい思い出をたらふくいただきました(笑)これからの人生はホームランか三振か?あくなき挑戦は続く…(写真左端)

# 鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年にあたり



### 鳥取県日本歯科大学校友会 常務理事 新潟84回卒 八幡 真司

今年、鳥取県日本歯科大学校友会が100周年を迎えることなることを誇りに思うとともに、100年 という歴史を考えると身の引き締まる思いがします。

私が、日本歯科大学新潟歯学部(現新潟生命歯学部)に入学したのは、ちょうど昭和が終わり平成に変わった、平成元年4月のことであったことを思い出します。今年、平成が終わり令和となった年に、この様な節目の事業に関われることを感慨深く思います。私が入学した平成元年はまだバブル景気のなごりがあり、1、2年生の頃は、学生の分際ながら毎日のように新潟の繁華街古町に友達と繰り出し、飲み歩いていました。大学時代は少々学び大いに遊びました。私の人生で、一番楽しかった時代です。大学でできた友人は、現在は東日本各地に散ばっていて、なかなか会う事は出来ないものの親友と呼べる存在です。大学では学問以外の多くのことも得ることができたと思っています。

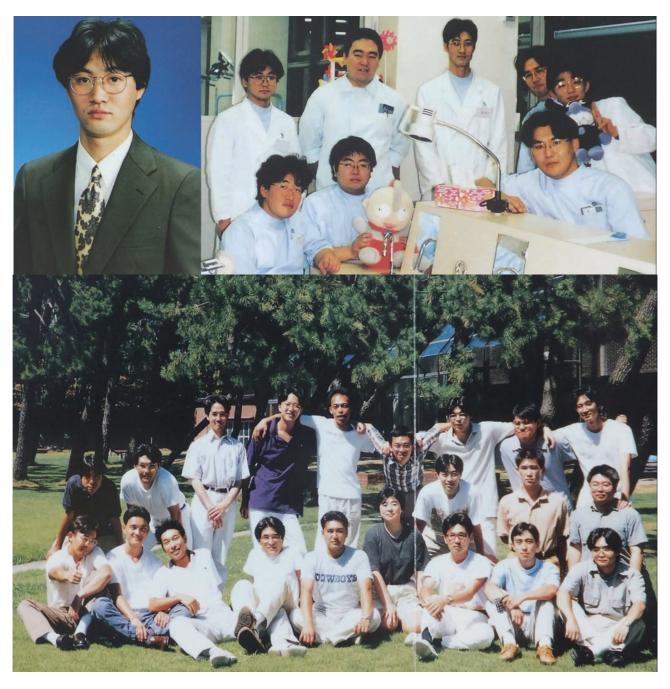
大学卒業後は、群馬県の開業医に就職しました。院長は、私が大学時代所属していたボート部の 先輩でした。卒業したての私を根気強く指導していただき、公私ともに大変面倒を見て頂きまし た。ここでの経験が今の私の診療の基礎となっています。

その後帰鳥し、平成15年に鳥取市に開業しました。その頃、歯科医師会のことは何もわからず、困った時に頼ったのが校友会の先生方でした。その当時、鳥取県歯科医師会の会長をされておられたのは林伸伍先生(50回卒)、地区の歯科医師会である鳥取県東部歯科医師会の専務理事をしておられたのが宮崎章先生(67回卒)でした。県歯科医師会および東部歯科医師会への入会にあたり林先生、宮崎先生には大変お世話になりました。さらに、県歯科医師会の入会の際に緊張して会長室へ挨拶に伺ったところ、林先生(当時県歯会長)にはとても気さくに対応していただいたことを覚えています。その後も校友会の先生方にはいろいろとお気遣いいただき、右も左もわからなかった私には大変心強く感じました。

また、鳥取県日本歯科大学校友会に入会して同期の平林律先生と出会うことができました。彼は東京校、私は新潟校ですので学生の時にはおそらく面識はないのですが、同じ84回卒という事でお互いに励ましあい頑張ってきました。年一回の総会の場では、なかなかお話しする機会のない大先輩の先生方とお話しすることができました。そして、「日本歯科大学校友会中国地区役員連絡協議会」に出席した時には、他県の校友の先生方と親睦を深める機会に恵まれました。

平成23年より会計担当理事を拝命し、林会長はじめ役員の先生方にご指導いただきながら、務めさせていただきました。一昨年には、36年の長きにわたり会長職を務められていた林会長が勇退され、宮﨑章先生が新しく会長に就任されました。宮﨑会長のもと新体制となり、私も引き続き常務理事を拝命いたしました。その年に早速「平成29年度 日本歯科大学校友会中国地区役員連絡協議会」の当番県、昨年は「平成30年度 第84回日本歯科大学歯学会中国地区歯学研修会」の開催と、大きな事業に関わらせて頂き大変貴重な経験をさせていただきました。

近年は、弟の八幡敏行(92回)も含め90回代卒の若い先生方の入会があり会が活気づいてきました。この様なときに鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年を迎え嬉しく思います。そして、これまで先輩方が100年もの長きにわたり、築き上げてこられた伝統を受け継ぎ、後輩たちに繋げていけるよう努力していきたいと思います。



苦楽を共にした新潟84回同期の仲間たちと(上の写真中央)

# 歴史ある鳥取県日本歯科大学校友会の一員として



### 鳥取県日本歯科大学校友会 監事 新潟77回卒 今田 哲哉

歴史ある鳥取県日本歯科大学校友会の一員として、また、理事の一員であることを光栄に思い 日々、診療をしております。

新潟校に入学当初は馬術部に入部いたしましたが、いつのまにか生きた馬から鉄の馬(オートバイ)にまたがるものが変わってしまい、すっかりその魅力に取り憑かれ弥彦山のワインディングロードを疾走していました。現在は、乗る機会も大分少なくはなりましたが、趣味のひとつとして愛馬?を手放すことはないでしょう。

楽しかった学生生活も終わり、平成元年に帰鳥し、鳥取県日本歯科大学校友会の一員になりました。現在の鳥取県日本歯科大学校友会の顧問である林伸伍先生(50回)は当時鳥取県歯科医師会の会長でした。ある時、医療トラブルが起こった際、すぐに先生に相談させていただきました。「まかせなさい。」と短い言葉でありましたが力強くおっしゃってくださり、早々に解決していただきました。あの時の林先生のお言葉がとても力強く響き、安心した時の事は今も忘れることができません。素晴らしい先輩を持った幸せを感じたものでした。

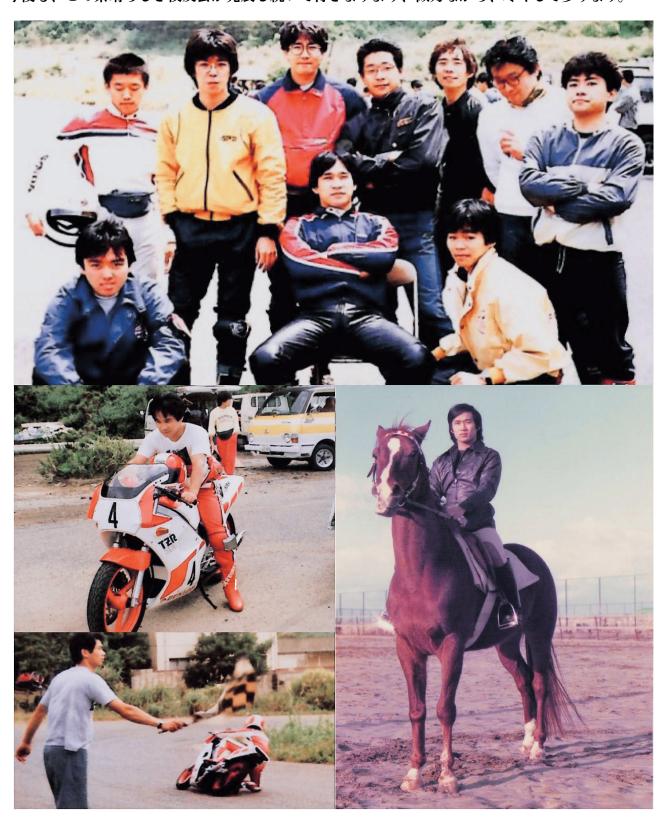
この度、母校から寄せられた資料を拝見していて校友会名簿に祖父の名前を発見しました。物故者の推薦・特別欄に祖父の名前があったのです。祖父は、私の両親が結婚する前に亡くなっていたので祖父の出身校を一度も聞いた事がありませんでした。

祖父の伊藤丈平(8回)、父の今田晴隆(32回)私、今田哲哉(77回)そして、今春卒業した息子の今田和隆(108回)となります。鳥取県日本歯科大学校友会100周年のこの機に、祖父と息子が100年の時を経て校友になったという御縁があった事を知り驚きを隠せません。

明治、大正、昭和、平成生まれの4代が、同じ学び舎で学ばせていただいた事を思うと、改めて 母校である日本歯科大学の歴史と、諸先生方、そして母校、校友会を支えてこられた全ての方々 に感謝をせずにはいられません。

島根県出身の父が鳥取に来た経緯は、「鳥取で校友が亡くなってその家族が困っているので助けて やってくれ。」と恩師に頼まれ、伊藤歯科医院を継承したと聞いています。当時、母は日本女子歯 科医学専門学校(現神奈川歯科大学)の学生で、母の卒業を期に結婚後、今田歯科医院に改名しました。その当時の恩師と校友への想い、そして教え子との絆の強さを感じました。 今回の100周年を機に、今まで点で聞いていた我が家の歴史が線となって繋がったのです。

今後も、この素晴らしき校友会が発展し続いて行きますよう、微力ながら、尽くして参ります。



愛馬にまたがり学生生活を謳歌していた時代。師弟の垣根を超えて教員と学生達でチームを作り 走行会に参加していた頃。日本海間瀬サーキットにて。 (集合写真前列中央)

### ご挨拶「鳥取県日本歯科大学校友会設立百周年」にあたって



### 鳥取県日本歯科大学校友会 顧問 名誉会長 50回卒 林伸伍

いささか私事にわたりますが、最初に私が日本歯科大学に進学する契機になった経緯を述べさせて頂きたいと思います。実は、私は中学、高校に在学していた頃から、父親の職業である歯科医師という仕事にまったく関心がなく、仕事の内容もまったく知りませんでした。幼少時から読書が好きで、将来は漠然と小説家か新聞記者のような文筆でもって生計を立てる職業につきたいものだと考えていたものです。

私たちの高校時代に、もう今では記憶している人もほとんどいなくなっていると思いますが、戦後新しく「進学適正検査」という全国共通のテストが導入されていました。そのテストで、私は思いがけずかなりの好成績をあげることが出来たのです。このテストの目的は、大学に進学するに当たってその進路が「理科系」であるか「文科系」であるかということを判断するものだったのです。全国平均が五十点を下回っていたのですが、私は運よく六十点以上をとることが出来たので驚きました。「運よく」というのは、そのテストが、記述式ではなく「○×式」のテストだったので、内容が分からなくても良い加減に○か×をつければよかったからです。このテストで、私の得点は文科系のほうががかなり良かったのは当然のことでした。因みに、この「進学適正検査」は評判が悪く、昭和二十九年には廃止になっています。それはさておいて、高校を卒業するにあたって、進路を「文科系」にしたのはこの「進学適正検査」によったものですが、もちろんこのテストがなくても多分「文科系」にしたと思います。

そして、担任の先生に「君の成績ではその大学は無理だから、地元の大学かどこかの私立大学の 文学部にしなさい。」と、と素気無く言われて憮然としたのですが、私は意地を通して何とか内 申書を書いて貰い、九州の福岡市にある某国立大学の文学部を受験したのです。もちろん、見事 に不合格でした。そこで、浪人して予備校に通い再度挑戦したのですが、またもや「桜散る」の 電報を受け取るという屈辱を味わった次第です。

二年目の浪人時代は半分やけっぱちで、予備校には行かず、あまり受験勉強などはしないで、田舎の禅寺の和尚と交友して参禅の真似事をしたり、漢詩を作ることに熱中したり、サンフランシスコ条約締結以後復活した「剣道」や「柔道」の町道場に通ったり、街中で不良たちと喧嘩をしたりなどして前年の灰色の浪人生活とうって変わった無頼な浪人生活を過ごしたのです。私は英語と国語だけはかなり自信があったのですが、数学はまったくの苦手でした。特に当時受験の必須科

目の「解析 I・解析 II」などという科目がさっぱり理解できず、どんなに頑張っても六十点以上取ることは不可能だったので国立大学は無理だから、受験科目に数学のない東京の私立の文学部を受験しようかな、という考えに変わり両親も一応了解してくれていたのです。

そのようなときに、父が米子市で歯科医院を経営している平林秀高先生に会い助言されたのだそうです。平林先生は、当時鳥取県歯科医師会の会長でありまた鳥取県日本歯科大学校友会の初代会長でもあった方でした。そのご助言は以下のようなものでした。平林先生のご長男の平林克之先生(第35回卒)はもともと画家志望で、一度親に勧められていやいやながら御茶ノ水の東京高等歯科医学校に進学されていたのですが、どうしても画家で身を立てたいという気持ちが捨てきれず、退学してぶらぶらして画を描いていたのだそうです。お父上の平林秀高先生は、本学の第四回卒であり、中原實学長と同窓だったので中原實先生に相談したところ、先生は「自分も本来画家を目指していたが、歯科医師の資格を取ったあと、歯科医師教育に従事しながら好きな画を描き続けている。君のご子息もぶらぶらさせていないでもう一度歯科の学校に入れて、資格を取ってから、思う存分好きな画を描くようにさせたらどうか。」というご示唆されたそうです。それに従って、克之先生を歯科の道に進ませ、現在では立派に歯科医業を絵画の道を両立させている、とのことだったとのことでした。

私は、そのときは聞き流していたのですが、その後、父の同級生である宇賀春雄教授が来鳥されて我が家を訪問された時に、同じように「資格を取って技術を身につけて生活を安定さ<u>さ</u>せてから好きな文学の道に励めば良いのではないか。見たまえ、米子の平林君も最初は歯医者になるのは嫌だとか何とか言っていたが、今では親のあとを継いで立派に歯科医院経営をやりながら、好きな画のほうにも頑張っているじゃないか。」と説得され、歯科医師への道に進むことを強く勧められました。宇賀教授は、日本歯科大学口腔外科教室の主任教授であり、私の父林義勝と同じ第十九回卒の同級生という関係でした。同級生でありながら、私の父が宇賀教授を心から尊敬して接している姿が良く理解できていましたので、私も教授の威厳に圧倒されて何となくその気になってしまった次第でした。

そして、昭和三十年に東京九段富士見町の日本歯科大学に入学した次第です。下宿先は赤城神社近くの牛込矢來町だったので、通学は毎日神楽坂を歩いて下り、飯田橋から先は軽い坂道を上って富士見町の大学に通いました。神楽坂から富士見町にかけての界限は、著名な文人たちの足跡が多く残されていて、非常に好感度が高くとても環境の良い地区でした。最近では大分様変わりしましたが、今でも比較的昔の面影が残っているのは嬉しい限りです。

大学では、あまり真面目な学生ではなく、体育会系の部活動では硬式野球部と柔道部の二股をかけ、もう一方では新聞部に所属して毎月新聞作りをしたり、父の友人である高津先生が発行されていた「日本歯科評論社」で編集のアルバイトをしたり、当時全盛だった「麻雀荘」に入り浸ってマージャンをしたりして過ごしていたものでした。また、上京した年の九月より約二年間、吉祥寺の井の頭池畔にあった「釈迦牟尼会・武蔵野般若道場」という在家禅道場の光龍老師の下で参禅しましたが、結局「見性」することが出来ず中途半端で止めてしまったことは慙愧に耐えない次第です。とにかく、あまり優秀な学生ではなかったのですが、六年間に追試験を受けたのは教養課程の一年生の時物理の前期の試験に一回こっきり経験しただけでした。当時の高校は選択制だったので物理を取っていなかった上に、大学でも授業をまともに受けていなかったので内容がさっぱり分からなかったのです。それでも追試験は簡単に通り、それ以の後の六年間は一度も追

試験を受けることなく、また落第することもなく、無事卒業できたのはまことに幸運だったとしか言いようがありません。学生時代にはそれなりに数々の想い出がありますが、何といっても新聞部での活動がもっとも強く印象に残っています。「日本歯科大学新聞」は原則的に毎月発行で、大学当局から新聞部員が全面的に編集を任されて自由に記事を書くことが出来たので、当時各方面から注目された新聞でした。もっとも、「学生会」の面々には「御用新聞だ」などと悪口を言われていつも喧嘩していたものです。確か、初代編集長は現在校友会の名誉会員である朝比奈敏行先生(第37回卒)で、私の直前の編集長が高橋先生(第48回卒)部長は長塩博夫先生(第48回卒)でした。私が部長、編集長になったのが学部二年生のときでしたので、その後の約三年間は中原實学長のご寄稿を依頼したり教授・助教授・講師の先生方からのご寄稿を依頼したり、また自分自身で記事を書いたりして自由に編集・発行をさせて頂きました。「学生会」の連中には、「大学の検閲があるのだろう。」などと変なかんぐりをされていましたが、もちろん「事前検閲」などということは皆無だったことを申し上げておきます。

当時の珍しい経験としては、校正が終り「紙型」を取ったあと、どういう理由だったのか記憶にないのですが、なぜかその「紙型」を下宿に持って帰り、翌日印刷所に行ったところ印刷所の門前に前日まではなかった赤旗が何本も翻り、ピケが設けられていて到底印刷などできない状態になってしまっていたのには、吃驚すると同時に大慌てしたものです。幸いに「紙型」を確保していたので、他の印刷所に持って行って無事発行したのですが、今思い出しても非常に稀有な経験をしたものだという懐かしさがあります。

私の次の編集長は長塩博夫先輩が名づけた通称「コルゲン君」こと飯田晴彦先生(第53回卒)でしたが、なかなかユニークなキャラクターの持ち主で、文筆力にも優れており、名編集長と言ってもよい存在でした。彼は、卒業直後から民謡の研究のために、秋田県の先輩の診療所に勤めながら十年以上滞在していたという変り種です。本職の歯科医業のほかに知る人ぞ知る三味線の大家で民謡研究家の大物になってしまい、かなり以前に発売された民謡のレコードの解説には彼が書いたものが多くあるようです。そのあとの編集長は、現学長で校友会の会頭でもある中原泉先生(第54回卒)と続きます。

余談ですが、中原泉先生の「医の小説集(第一集~第三集)」(テームス)は非常に優れた文学集で、心を打たれる作品ばかりです。とくに、「空蝉に馬琴」「一茶哀れ」「リンダの跫音」などの時代小説は面白いこともさりながら、文学的にも格調が高いものばかりです。また、「三鬼弾圧異聞」は、校友の大先輩であり異色の俳人西東山鬼(本名斉藤敬直―第14回卒)の特高スパイ容疑の汚名(高名な実録作家小堺昭三によるもの)を雪ぐために遺族が行った名誉回復裁判の顛末を綴ったオマージュというべきものです。中原泉先生の、校友の大先輩に対する畏敬の念と愛惜・哀惜の情をもって書かれた、心を打たれるご労作です。これらの「中原泉―医の小説集」を未だお読みでない校友の方々には、是非お読みいただくことを強くお勧めする次第です。

卒業後は、アルバイト先の「日本歯科評論社」に正式に入社して歯科ジャーナリズムの世界で生きていくつもりで両親には無断で高津先生にもその旨を確約していました。これは一つには、学生時代あまり学業に身を入れないでいたので、正直なところ国家試験に合格する自信がなく、万一国家試験をしくじっても雑誌社に勤めれば良いのではないか、という実に安易で不埒な考えもあったのです。ところが、卒業の少し前に高津先生が何かの会合で宇賀教授と偶然会われた際、「鳥取の林君は卒業したらうちに勤めることになったよ」と仰しゃったので、宇賀教授は吃驚さ

れ、私を教授室に呼びつけ大変な剣幕で激怒して叱責されたのです。「卒業したら、歯科評論などというやくざな業界誌に勤めるとは一体何事だ。歯科医師の資格を取らせて一人前の歯科医師になって貰いたいと願って、六年間苦労して授業料と毎月の仕送りをしているご両親に顔向けできるのかね。第一そのことをきちんとご両親に話しているのか。」、と詰問され、さらに「僕は君の親父さんに頼まれて君の保証人になっているのに、その保証人の僕に一言も相談もなく高津君の雑誌社に勝手に勤めることを決めるとは極めて非常識で人の道に反しているのではないかね。」と散々でした。それは、まったくその通りなので、私はもう一言もなくひたすら下を向いている以外にはなかったのですが、続けて宇賀先生の「君、卒業したら大学の口腔外科教室に入って最初から勉強のし直しをしなさい。」という意外な言葉に直立不動の姿勢で反射的に「ハイッ」と答えてしまった次第でした。

そのような次第で、昭和三十六年に卒業し、まったく自信のなかった国家試験も何とか合格して 宇賀教授の口腔外科教室に入局させて頂きました。因みに、この年の国家試験(昭和三十五年度 春)は合格率わずか四十数パーセントというこの制度が始まって以来未曾有の最低合格率でした ので、今思い出しても冷や汗がでます。口腔外科教室に入局してからしばらくたった頃、日本歯科 大学のヨーロッパ歯科研修旅行団の募集があり、そのメンバーの一人が出発前に口腔外科教室を 訪問されたのですが、それが当時日歯大鳥取校友会の会長の田村先生(第25回卒)でした。色が 黒くて眼光が鋭く、なかなか迫力のあるひと癖もふた癖もありそうな顔つきの先生だな、という 印象が強かったことを記憶しています。

昭和四十年の十月に鳥取に帰り、早速、地区歯科医師会、県歯科医師会はもちろんのこと、校友会に入会させて頂きました。田村威会長は、なかなかの親分肌の方でしたので公私共に随分お世話になりました。その時の鳥取県校友会は、田村会長以下わずか八名で、私が加入してやっと九名と少人数でした。当時から、「学閥」などということが声高に言われていましたが、約二百名の県歯会員の5パーセントにも足りない、吹けば飛ぶような人数に過ぎませんでしたので、「学閥」などという意識はまったく露ほども存在するはずがありませんでした。当時、私は午前中は鳥取県庁内にあった「県職員歯科診療所」に勤め、午後は父親の診療所に勤めるという割合気楽な生活を送っていたのですが、その吹けば飛ぶような少人数の校友会が「学閥」の嵐の真っ只中に巻き込まれてしまったのです。昭和四十二年の八月頃に県歯のごたごたが起り、当時の県歯会長の坂口晋一郎先生(日大)が鳥取市歯科医師会役員を中心としたグループにクーデター同然の手口で辞任に追い込まれ、執行部が総辞職し、十月に会長選挙が行われたのです。そして、その選挙でまったく誰も想像もしなかった校友の清水正史先生(第38回卒)が当選してしまったのですから、会員全員が吃驚仰天した次第です。

この間の事情を詳しく述べると膨大な紙面を必要としますので、要点だけを述べますと、実はこれには東京本部の校友会と大いに関係があったのです。それは、あとで知ったのですが、翌年の三月に行われる予定の日本歯科医師会(以下日歯)の会長選挙に絡む出来事だったのです。当時の日歯の会長は日歯大の中原實学長だったのですが、これに大歯大の竹中恒夫氏が名乗りをあげるという情勢でした。そして、もちろん当時の私はまったく知らなかったのですが、この十月の時点でその選挙は一票を争う選挙になるだろうという下馬評があったのです。当時、県歯の会員の過半数は大歯大同窓会員で占められていたのですが、どうも一枚岩ではなく内部はごたごたしていた様子で、日大出身の坂口前会長支持派と東部地区を中心とした反対派に分かれていたということだったのです。十月の再選挙では、坂口前会長が会員に信を問うために再度立候補するだ

ろうという噂があり、前会長を攻撃して辞職させたクーデターグループ(大歯系)は中部地区、西部地区に圧倒的な支持がある坂口前会長には勝てないまでも対抗馬を出すべきだという声を上げたものの、誰も手を上げないでいたのです。一同が顔を見合わせて躊躇しているときに、清水正史先生が「僕が立候補します」といって勇敢にも立候補届けを出したのです。

もちろん、坂口前会長が再立候補すれば勝ち目は皆無で、赤っ恥をかくことは明らかでした。ところが、何と、坂口前会長はどういう理由か不明ですが立候補届けを出さなかったのです。そこで、まるで「瓢箪から駒」のように県歯の役員歴のまったくない無名の清水正史先生が会長に当選してしまったという次第でした。我々もそうですが、多くの会員も坂口前会長を辞職に追い込んだ面々もただただ驚くしかなかったようです。私は、故郷に帰ってからまだ一年少々しか経っていなかったので、県歯の詳しい事情など分かるはずもなく、新会長になった清水正史先生とはほとんど親しい付き合いがなかったので、その時点では同じ校友の先輩が会長に当選されたことをただ漠然と嬉しく思っただけのことでした。

ところが、それから二週間くらい経った頃、田村校友会会長から「緊急の重大な相談事があるから集合して頂きたい」という呼びかけがあり、市内の一流料亭に集合することになったのです。 集まったのは清水先生、田村威先生、八百谷一洋先生(第39回卒)、今田晴隆先生(第32回卒)、それに私というわずか五人ほどでしたが、清水正史先生が深刻な顔をして座って居られたことを今でも忘れることが出来ません。田村会長より「緊急の相談事」の内容が説明されたのですが、実に思いがけないことでした。何と、清水新会長が執行部を組閣することができないということだったのです。その理由を聞いてさらに驚きました。

実は、会長当選後、坂口前会長追い落としを画策したグループの黒幕である古稀を越えたご老人が清水新会長に、「僕を副会長兼日歯予備代議員に指名しなさい。そして、来年三月の日歯定例代議員会には僕が出席するから、君はゆっくりと温泉にでも入って休養していなさい。」と言われたとのことです。驚いた清水先生がその理由を問い糾したところ、「来年の三月の代議員会で日本歯科医師会の会長選挙があり、日歯大の中原實先生と大歯大の竹中恒夫先生との一騎打ちとなる予定だが、僕は竹中先生に大きな恩義があるから竹中先生に入れるつもりだ。君は中原先生に同窓の義理があるだろうが、それはさしたることではないだろう。表向きは病気ということにして代議員会を欠席して頂きたい。」と言われて愕然としたものの、断乎として拒否したのです。そして、「君がこれを拒否するようなら我々は絶対に執行部を組閣させないつもりだから、君もそのつもりで覚悟しなさい。」との実に理不尽な恫喝をされたとので田村校友会長に相談されたという次第だったのです。

この黒幕老人の「竹中先生に恩義がある」というのは、実は平林秀高元県歯会長と大いに関係があったのです。それは、昭和二十八年頃、当時の県歯会長だった平林先生が改選時に「選挙告示」をしないで、総会で承認を得て再度会長になったのですが、この黒幕老人が「定款違反」という理由で正式に「当選無効」の民事裁判を起こしたのです。何度かの審理のあと、裁判官が和解案を出したため調停作業に入り、参考人として当時日本歯科医師会の専務理事であった竹中恒夫氏が来鳥し、日本歯科医師会を代表して平林会長に不利な裁定を出したため、実質的に平林会長の敗訴となり会長職を退かなくてはならなくなったのです。黒幕老人は、そのときの恩義を返すためにこのような胡乱な田舎芝居を打ったというのですから、私は開いた口が塞がりませんでした。私は、それまでいわゆる「歯科医政」にはまったく興味も関心もなかったのですが、これ

を聞いて、とんでもない破廉恥な連中だと憤慨し、田村会長を初め日歯大校友会本部からも発破をかけられたこともあり、端無くもこのださい田舎芝居の舞台に上がってしまったわけです。私は何日も診療を休んで、清水先生を伴って、県の中部歯科医師会、西部歯科医師会を訪問して、坂口前会長を追い落としたグループの内幕を暴いて新執行部を組閣することに協力してくれるように工作したのですが、当時入会してわずか一年少々の若造のいうことなど誰も聞いてくれなかったのは当然のことでした。そこで、このくさい田舎芝居が引き起こされた次第を暴露した「県歯の紛争が何故起ったのか」という内容の一文(怪文書と呼ばれました)を書いて全会員に配ったのです。東京の校友会本部からは、「とにかく三月の代議員会まで、清水さんに頑張るように皆で支えてやってくれ」との檄が飛び、小暮山人先生(第38回卒)や日歯大出身で島根県選出の衆議院議員中村英男先生(第16回卒)などが相次いで来鳥され「圧力に負けて辞任するようなことは絶対にさせないように。」と強く要望をされたのです。

一方クーデター側では自分たちの陰謀が怪文書によって暴露されたため、黒幕のご老人をはじめグ ループの面々が怒り狂い、挙句の果てに「執行部の組閣は絶対にさせない」どころか、清水会長 に辞表を出すようにと強硬に迫るようになったのです。多くの人が入れ代わり立ち代り清水会長 の自宅に押しかけたり、クラブや料亭に連れ出したりして、辞表を書くようにすることに躍起と なった次第です。そして、宥めたり賺したり恫喝したりしたのですが、清水先生は多くを語らず、 顔にうっすらと微笑を浮かべながら、「うんでもなくすんでもない」と言う態度で、否定もしない し肯定もしない、という姿勢を貫き通されたそうです。この頃はいつも憂鬱そうな顔つきだった 清水会長が、この時は珍しく笑顔で「あの連中に大分金を使わせてやりましたよ。」と語られた ことが懐かしく思い出されます。そして、当初は意気軒昂でかなり強気だった田村威校友会会長 は、クーデターグループにいわゆる怪文書を書かせた使嗾者ではないかと疑われ、さらに多くの 場所で黒幕老人の悪口を言ったことを理由にして「名誉毀損で告訴する」と恫喝され、すっかり 腰が引けてしまいました。そして、「林さん、あとはあんたに任せるわ」と言って表舞台から退い てしまわれたのです。何しろ、相手の黒幕老人は平林秀高県歯会長を実際に裁判で訴えた経歴の ある強面のご仁ですから、流石の田村先生もすっかり気後れしてしまったのです。その後、清水会 長の辞表を取ることが難しいと判断したこの黒幕のご老人は、作戦を変えて「清水会長を除名処 分にする臨時総会の開催を要求する。」などということを言い出したのです。「除名処分にす る」理由は、何と「清水新会長は、人望がなく、執行部を組閣することが出来ないために、会を 混乱させ会務が空白になり、会および会員に多大の損害を与えている。辞任を求めても辞任しよ うとしない。このような無能な会長は"除名処分"にしない限り会運営の正常化は得られない。」 というような趣旨でした。この件で、私はクーデターグループの陰のリーダーだった先生に会談を 申し込まれたのです。

この頃では、彼らは"清水会長の突っ支い棒は田村先生ではなくどうも若造の林伸伍らしい"と察するようになっていたので、私に会談を求めたのです。そして、「同窓であるというだけで、個人的には大して恩義があるわけでもない人のために殉じて一票を入れることに何の意味があるのですか。辞表を書かないで頑張っていると、除名処分になって、この地では一生涯生きていけないことになりますぞ。」とのことです。私は、「何をわけの分からない寝言を言っているのですか。会を混乱させた原因はそちらのほうにあるんじゃないですか。事実をまるでねじりん棒の飴細工のようにひん曲げてあべこべのことを言っても、良識ある会員の前には通用しませんよ。本気で清水先生を除名処分にするというのならやればいいでしょう。できるわけなどないでしょう。」と言って反撃したところ、その恫喝は沙汰止みになってしまいました。そういうことで、私が清

水会長を支えて会務を行うという異常な状況下で約二ヶ月が経過したわけですが、紆余曲折のあ と、結論的には年が明けた一月の末に臨時総会を開催することになり、事態は何とか終息に向う ようになったのです。理事会も開催しないで出された異例の総会通知でしたが、今から思えば誰 も文句を言った人がいないのが不思議なくらいです。その臨時総会の議案は、会務などまったく やったこともない私が、二ヶ月ほど前に新しく県歯事務局長に就任したばかりの事務掌理には堪 能だった福島駒男(元鳥取市総務部長)さんに、会長の指示だと言って作成させたものでした。 しかしこれも、理事でもない私が事務局長に指示し、実際にそのように行われたなどいうこと は、今から思うと実に奇怪至極な話でした。その議案は、第一号議案として「三月に行われる日 歯代議員会における代議員権の放棄」第二号議案として「会務正常化について」という二つの議 案でしたが、その主旨は「今回の県歯のごたごたは、日本歯科医師会の会長選挙に起因している ので、清水会長は辞任するが新しく選任された会長は三月の代議員会には代議員権を放棄して出 席しない。」という内容だったわけです。この議案について、あらかじめクーデターグループのご 仁たちと根回しをしたのですが、「議案二号を第一号に変更して最初に議決すべきだ」と強硬に 主張する彼らに、「何を言っているのですか。先に会長辞任の議案を議決したあと代議員権放棄 する議案を否決されたら、会長が辞任する意味がないのではないではないですか。」などと結構 激しいやり取りがあったものの、すでに清水会長から頂いていた「会長辞任届け」を見せたので 何とかこの順序の議案で臨むことを了承させて臨時総会が開催される運びとなったのです。そして その臨時総会で、理事でもなんでもない私がこの議案の提案理由の説明をしたことに対して、出 席者の誰も異議を唱えなかったことも、今から思うとこれも実に変な話でした。

何はともあれ、無事、二つの議案が議決され清水会長は約四ヶ月の在任で辞任されたわけです。いわば「こちらの一票も失うが、相手にも一票を与えない」という「痛み分け」でこの格好の悪い田舎芝居は幕引きとなったのですが、結果的には残念ながら三票の差で竹中氏が日歯会長選挙に勝ってしまったのです。この結果を聞いて、半年以上前から「一票差を争う選挙になる」などと予想されていたことに改めて驚かされたものです。私は、「三月の選挙まで頑張る」という清水会長に対して、「それも、中原学長や母校に対する忠誠心かも分かりませんが、選挙まで頑張って一票を入れたとしても、もしも負けたとしたら彼らの言うとおりもうこの地ではまともに生きては行けませんよ。むしろ、相手に一票を入れさせないようにして潔く身を引いたほうが良いのではないですか。」と説得してこのような案を出したのを聞き入れていただいたわけです。三月の代議員会まで頑張って一票を投じたとしても結局二票差で負けていたわけですから、結果的にはそれで良かったと思っている次第です。因みに、清水先生はそのご数年間会員の前に姿を見せることなく逼塞されていたのですが、昭和四十八年に県歯新会長となった上田務会長執行部の第一回定例理事会で、正式に「顧問」に就任され晴れて会員の前に姿を現されるようになったことは、私にとって大変に嬉しいことでした。

さて、その後、昭和四十四年には、詳しい事情は長くなるので省略しますが、私はひょんなことから県歯の会計担当常務理事に就任することになり、その後は昭和五十年に県歯専務理事に就任、さらに平成五年に県歯会長に就任、平成二十三年に会長職を辞任するまでの四十二年間にわたって県歯の役員を担当させていただきました。一方、地区歯科医師会では、昭和四十二年より鳥取市歯科医師会理事、昭和五十年より東部歯科医師会副会長、昭和五十四年より三期六年東部歯科医師会長を務めさせて頂きました。東部歯科医師会は、昭和六十年より八百谷一洋先生(第38回卒)、清水博先生(第41回卒)、林先生(第58回卒)がそれぞれ二期あるいは三期努められたのですが、少ない校友会員でありながら地区歯科医師会長としてこのように多くの校友会の先

生方が就任されたということは、校友会にとって名誉なことであると心から嬉しく思っていると ころです。

少ない校友会員と申し上げましたが、私が帰郷して入会させて頂いたときはわずか九名にしか過ぎなかったのですが、一時は二十数名に増えたこともありました。鳥取県という山陰の僻陬の地から遠く離れた東京の大学に進学することはかなり困難ですが、それでも現在二十名前後の校友を有して互いに強く結ばれていることは、「血は水よりも濃し」という警句の通りで大変に心強いことだと思っています。校友会長は、初代平林秀高先生から、田村威先生、八百谷一洋先生、清水博先生、上村貞先生(第35回卒)のあと私が昭和五十六年から平成二十九年まで三十六年間にわたって会長職を務めさせて頂きました。その間は、たまに行う学術研修会のほかは、ただただ親睦一途というあまり冴えない校友会長でした。そのあと平成二十九年六月より新進気鋭の宮崎章先生(第67回卒)に引き継いで頂き現在に至っていますが、就任直後から大いに活躍されていることはまことに頼もしくまた喜ばしい限りです。

少々長い挨拶の辞となりましたが、私の歯科医師への道もすべて初代会長平林秀高先生以下校友 会の諸先輩がたとの機縁によるものであり、また校友の皆さまの一方ならぬご支持・ご支援に よって今日に至っているということを衷心より感謝して擱筆する次第です。



昭和29年(1954年) 20歳の頃 本学口腔外科学教授 宇賀春雄先生ご来鳥の折の記念撮影 自宅にて父 義勝(19回卒)と母、兄とともに

### 鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年記念への 祝辞



### 63回卒 伊藤 隼三

私は、昭和43年に日本歯科大学に入学致しました。私にとって入学試験は難しく苦労して合格したのを覚えております。入学後は希望に満ちた大志を抱き喜んで大学に行ったことを今でも鮮やかに思い出します。

あれから半世紀、現在は歯科診療を引退し倅の伊藤幸太(97回卒)も卒業後東京での勤務医生活 を終え、結婚し地元米子で開業したのを機に引退しのんびりと日常を楽しく過ごしております。

この半世紀の間に多くの友人に出会い、多くの思い出をもらい感激している次第です。良き友、良き健康、良き人生、何をとっても日本歯科大学よりたくさんの贈り物をいただきました。充実した診療を送ることができたのも大学での環境、先生方の教えから得られたものだと思っております。

今、人生の終着点に近づき自分としてはいろいろ考えるところはありますが、全て平凡な人生を選択して生きてきたように思います。しかし令和の時代は歯科の社会も今までと違い、より未来志向な学問としてその意義を大いに前進させる必要があるのではないでしょうか。これからの10年後、100年後、それ以上先の時代へと終わりのない前進をして、よりハイレベルな診療を求めてゆくのが日本歯科大学の未来だと思っております。

私も残り人生わずかとなりましたが、母校の発展と歯科医療のより上を目指した道に、勇気と力 と炎のようなエネルギーを感じております。今こそ、これまでとは違う歯科界が実現し、全国民 がより良い治療を受けられることになってくれると願っておりますし、そうなってゆくと確信して おります。

生命あふれる歯学部、生命あふれる歯科治療、生命あふれる若者達、生命あふれる道程、まさに 今後の歯科界は新たに変わっていくでしょう。新しい技術が開発され、私達の時代にはない多く の器材、機械、薬品など、まったく想像すらできないものも出てくると思います。 そんななかで母校の日本歯科大学も世界に向けて大きく発信していく大学としてますます発展を 続けているということを伺っております。令和になり、昭和平成と生きてきた私にとって母校の活 躍は楽しみであり、夢でもあります。

日本歯科大学に永遠の幸があらんことを。最後となりましたが、この度は日本歯科大学校友会設立100周年記念、誠におめでとうございます。



学生時代の思い出。富士山の麓の本栖湖にて同期の仲間たちとの一コマ (右端)

### 近況報告



### 新潟69回卒 芹田 晃

鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年まことにおめでとうございます。

記念式典、記念祝賀会も終えた今、こうして書き始めております。多くの方にご臨席を賜り、盛大な式典、祝賀会でした。準備された宮崎会長以下役員の先生方には頭が下がります。特に、平林律専務理事をはじめ若い先生方は、8か月前から準備されているとのことを伺いました。当日の進行も見事でした。当日やって来たお客様校友をお許しください。

私が日本歯科大学新潟歯学部に入学したのは、1974年、45年前になります。入学当時は学生が3学年しかなく、広い学内は静かでしたが、教授以下先生方は20代30代の方が多く、エネルギッシュでした。

記念式典、記念祝賀会にお見えになっていた中原泉校友会会頭からは学生時代講義を受けております。左手で器用に板書され、少しこわもての顔つきで(大変失礼でした)、力強く講義されていたお姿が目に焼き付いております。記念式典あと懇親会の際に、ご挨拶に伺いがいましたが、やさしく対応いただきました。100年という歴史の中で、先輩方のご努力に感謝し、若い先生方のこれからのご活躍を心より祈念いたします。

先日、父の日に息子から贈り物が届いたので、お礼の言葉と共に、「 最近は、ガーデニング、自 転車、ゴルフ、ナンプレ、で忙しい。」とLINEをいれました。返事が返ってきて「感性、肉体、 知性をバランスよく鍛えているようだ。すばらしい。」とありました。あまり深く考えていな かったが、確かにそのようであります。

私も、あと2か月で65歳、年金受給者です。体力、知力の低下を実感する昨今です。歯科医師に定年制は無いのですが、余力を残して定年を自分で決める日が来ると思います。その日は近いと思いますが、その日まで知力、体力の維持を図り、日々の生活に楽しみを求めております。

ガーデニングと言えば聞こえがいいのですが、主な仕事は草取りです。梅雨時期は草木の成長著しく、最近は毎朝仕事前30分間、草取りに励んでいます。雑草という草はないそうですが、数種類の雑草と馴染みになりました。草取りが一段落すると、植えてある木々の剪定です。見た目に悪く不要と思われる枝はどんどん落とし満足しています。緑一色の空間で色気がないので、花を植えてみようと、ボタン、バラ。アジサイ、ペチュニア、ベゴニア、ゼラニウムと仲間が増えています。最近、ローズマリー、ラベンダー、スペアミント、バジルとハーブも仲間入りしました。ガーデニ

ングに知識も技術もない私ですが、ここの空間にいると心が癒され時を忘れます。そして感性が養われているような気がします。

現在、米子と境港の間に弓ヶ浜サイクリングコースが整備されています。全長16キロメートル。米子側7.5kmはすでに完成。先日境港側5.8km供用開始されました。早速走ってみましたが風光明媚な日本海と大山両方を眺めることができ、砂浜や松林の中を走るなど変化にとんだコースでした。残り2.5km来年3月の完成が待たれます。サイクリングは肉体をきたえるには最高です。

ゴルフを始めて40年近くになります。技術的には進歩がないのですが、それでいいのです。体力、知力が養われ、多くの友人が出来ました。最近はナンプレにはまって半年です。使用している本は252問あり、難易度のレベルが10級から神まで15段階。毎日1~2問解いています。今、神のレベルあと4問で終了です。最近、頭の回転が良くなっているような気もしますが、ナンプレのおかげでしょうか。

体、頭、心は生きていくうえで必要なものだと思います。65歳を目の前にして衰えようとしている自分を自覚し、無意識のうちに遊びの中で補おうとしていました。まだまだ遊びますよ。けが、認知症予防に。他におもしろいことないかなと考える今日この頃です。

これからも母校ならびに鳥取県日本歯科大学校友会のご発展を心より祈念いたします。



先輩!若いです!!これからも趣味を増やして楽しい人生をお過ごしください。

### 鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年に際して



### 東京92回卒 八幡 敏行

はじめまして。新潟84回卒の八幡真司の弟の東京92回卒の八幡敏行と申します。

鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年という言葉を耳にした時、長い年月、節目の年、歴史の重み、といった言葉が思い浮かびます。設立100周年という一言の中に、長い間、その時代、時代に合わせた組織を築き上げていくための、先輩方の日々の並々ならぬ努力は、大変なものがあったであろうと思われます。このたび、校友会入会と同時に、設立100周年記念式典ならびに祝賀会に参加させていただくにあたり、宮崎章校友会会長をはじめとした役員の皆様にお声がけ頂きまして、大変光栄に思います。

私が日本歯科大学に入学したのは、今から22年前になります。在学中は水泳部に所属し、歯学体を目指して練習に励んでいました。と言いたいところですが、どちらかというとお酒を飲んでいた時間の方が長かった様に思います。

鳥取から上京して初めての都会での一人暮らしの中で、先輩から生活の事、大学の事、お酒の 事、等々様々な事を教わりました。とても刺激的で楽しい6年間でした。試験さえなければもう一 度、学生時代に戻りたいです。

大学を卒業して研修医を経て、10年ほど東京で勤務医をしていました。その歯科医院の院長も日本歯科大学出身でした。私が日本歯科大学出身だと分かると即採用となり、診療の基本を一から教えて頂きました。改めて日本歯科大学の校友の絆の強さ、ありがたさを感じました。

その後、東京を離れ、鳥取、尼崎、大阪を点々としたのち、再び鳥取に戻り、兄が院長を務めているやはた歯科医院に勤務している際に、この度のお声がけがありまして恥ずかしながらこの時初めて鳥取県日本歯科大学校友会という組織がある事を知りました。

日本歯科大学校友会については、存じ上げておりましたが、47都道府県すべてに組織があり、 しっかりと運営されていること知り、日本歯科大学の素晴らしさを改めて感じました。 学生時代、他県には県人会がありましたが、鳥取県人会というものはなく少し寂しく思っていま した。しかし、鳥取県日本歯科大学校友会がある事を知り、今後、鳥取県内で歯科医院開業を目 指していくうえで、とても嬉しく、頼もしく思えます。 この機会に鳥取県日本歯科大学校友会に入会させて頂きたく思い、先日、兄に連れられて理事の 方々の集まりにごあいさつに伺わせていただきました。その時、理事の先生方がとても気さくに 話しかけてくださり、快く校友会への入会を承認して頂きとてもありがたかったです。

まだ鳥取に帰ってきたばかりの右も左も分からない若輩者ではございますが、先輩方が築き上げてこられた日本歯科大学の歴史を汚さない様、兄共々日々精進してまいりたいと思います。

ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



左上が水泳部での写真。文字通り水を得た魚?のような東京での学生生活でした! (右端)

### 鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年によせて



### 東京97回卒 伊藤 幸太

この度は、鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年記念誌の発刊、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。このような記念すべき節目の記念誌に寄稿させていただけることを大変嬉しく思います。拙い文章ではありますが暖かい目で見ていただければ幸いです。

まず始めに、実は私と校友会は大学卒業後、最近までほとんど接点はございませんでした。卒業後、校友会に所属はしていたものの、自分が特に何か活動等をしていたわけではございませんでした。むしろ校友会がどのような活動しているのかさえよくわかっていない状態でした。

私は大学を卒業してから関東で勤め、故郷の米子には10年ほどしてから戻りました。父伊藤隼三 (63回卒) は以前より鳥取県日本歯科大学校友会に所属しており、校友会のお話は伺っていたのですが、ようやくこのたびの故郷での開業を期に、私も校友会の末席に加えさせていただくこととなりました。そんな経緯で、いままで校友会の方々と特に接点があったわけではなかったのですが、会長の宮﨑章先生(67回卒)をはじめ、会員の皆さまがとても暖かく迎えいれていただいて大変嬉しかったことを覚えております。

まだまだ入会して日も浅いですが、昨年の中国地区歯学研修会などの準備や開催もお手伝いさせていただき、貴重な経験をさせていただきました。その時にたくさんの先生方とお話をさせていただいたのですが、日々の診療のことや大学時代のお話を多々伺いました。その中でも部活動の話が一番盛り上がったと思います。校友会の先生方の人数が多かったため、年齢差がありますが、共通の話題としてあがる部活動の話はとてもおもしろいものばかりでした。

私は学生時代少林寺拳法部だったのですが、少林寺拳法部に所属されていた先生方はもちろん、他のクラブの先生方も当時の少林寺拳法部はこんな感じだったよとか、あの先生とは会ったことあるのかとか、あの先生は昔はもっと痩せていて格好良かった、などなど今まで知らなかったことや学生時代の失敗話が出てきて話題は尽きませんでした。

そんな校友会の先生方とお会いして思ったことは、東京、新潟とキャンパスが異なっても、所属する校友会が異なっても、年齢差があっても、分け隔てなく日本歯科大学校友会の一員として温かく迎え入れてくださったということです。このような校友会だからこそ設立100周年という歴史と文化を紡いでいったのだということをありがたく感じました。

入会したて、開業したてでまだ地に足がついてない状態ではございますが、まずは個の力を高めながら校友会の一員として微力ながら貢献してまいりたいと考えております。

最後にはなりましたが、鳥取県日本歯科大学校友会の今後のますますのご盛栄を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。改めて設立100周年、誠におめでとうございます。



少林寺拳法部の仲間たちとの思い出の1枚。稽古に励み節を磨した6年間でした。 (後列右から3番目)

### 鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年を祝して



### 東京99回卒 宮﨑 章太

このたび、鳥取県日本歯科大学校友会が設立100周年を迎えると伺ったときは最初驚愕いたしました。やはり歴史のある母校であるとしみじみと感じておりますと同時に、父はもちろんですが、故郷を同じくする諸先輩方が築き上げてこられたこの「鳥取県日本歯科大学校友会」は私たち若い世代がしっかりと引き継いで守っていかなければならないと感じています。また、輝かしい歴史と伝統を100年の長きにわたり連綿と培ってこられた諸先輩方にこの場をお借りして深く感謝の意を表したいと思います。

学生時代は、6年間硬式野球部に所属しており学業以上に奮闘しておりました。その中でも記憶に一番残っているのは、私が4年生の時、全国歯科学生体育大会で準優勝をした時のことです。酷暑の中、松本の地にて1週間戦い抜いたことはいい思い出です。また、野球部ではとても素晴らしい友人、先輩に恵まれ、学業の面でも大変お世話になりました。友人とは互いに励まし合い、先輩方にはテスト資料などを頂きながら無事にストレートで卒業することができました。私にとって硬式野球部に所属したことが、6年間の大学生活の中で1番の"成功"であったと思います。おかげさまで学生生活全てが順調だったように思います。

昨年帰鳥した折、鳥取県日本歯科大学校友会に入会させていただきました。まだまだ入会して間もないですが、先輩方はとても結束が強く、会員同士の親睦と相互扶助の精神を何よりも尊び、 ご一緒させていただいた折には楽しい時間を過ごさせていただき、居心地の良い組織と感じております。人数が少ない分、とても会員同士の距離が非常に近いと感じています。

現在は、父と母とともに診療に従事しております。時代の違いはありますが、やはり今まで自分が学んできたこととは違う診療がなされており、最初は葛藤もありました。父は41年間の経験で自分の診療スタイルを確立しておりますので、それぞれの診療スタイルで患者さんも分けて診療しています。ただ、この宮崎歯科医院を作り上げてきたのは間違いなくそれは父と母なので、環境に感謝しつつ地域の方々に貢献できるよう日々研鑽してまいりたいと思います。歯科医師、校友会、人生の先輩でもある父の背中を追いながら成長していきたいです。

最年少ではございますが、末席に加えていただいたことのご縁に心より感謝し、未熟ではございますがその一員としてしっかり先輩方のサポートができるよう頑張ります。また、顧問の林伸伍 先生(50回卒)は言うまでもありませんが、専務理事の平林律先生(84回卒)は硬式野球部の大 先輩でもありますのでたくさん可愛がっていただけますよう、平林先生のお力になれるよう邁進していきたいと思います。 入会したてで右も左もわかりませんが父の背中を追いながら鳥取県日本 歯科大学校友会の発展に微力ながら尽くしてまいりたいと思います。

皆様のご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



林顧問と平林専務も所属していた硬式野球部に所属していました。大切な同級生と思い出の1枚。

### 特別寄稿

### 新作民藝運動の母 祖父吉田璋也

### 鳥取県日本歯科大学校友会副会長 吉田 章二

私の祖父吉田璋也(1898~1972)について少し触れておきましょう。 新潟医専(現新潟大学医学部)在学中、文芸同人サークル「アダム社」 を結成し、朋友である式場隆三郎(山下清の画才を育てた精神科医)と 千葉の我孫子に柳宗悦を訪ねます。

白樺派の柳を生涯の師と仰ぐ事となり。文豪志賀直哉、武者小路実篤等とも知己を得ます。柳は朝鮮の民器の李朝の白磁の美しさに「美の本質」を見出し、「民衆的工芸」つまり「民藝」という言葉を作り民藝理論を確立して活動を広めます。そして、東京駒場に「日本民藝館」を創建し、時期を同じくしてバーナード・リーチ、濱田庄司、河井寛次郎、芹沢圭介など民藝作家の指導者達が全国的に活躍していきます。



吉田 璋也

昭和6年鳥取に戻った璋也は地元の牛の戸窯に新たなデザインの器を作らせます。国展に出品し、 牛の戸など入選を果たしました。木工、金工、染色など多岐にわたりすべて買い入れ、流通販売 するシステムを確立しました。昭和7年鳥取にオープンした「たくみ工芸店」は日本初の民藝専門 店で、翌年に銀座に「東京たくみ」を鳥取からのアンテナショップとして開きます。柳をして、「吉 田君は新作民藝運動の母」であると言わしめた位です。

璋也は自らを「民藝のプロデューサー」と表現しています。昭和13年から20年まで軍医として北京に滞在し、民藝だけではなく文化研究を展開します。帰国して、京都で十二段屋を開く西垣光温氏にある翻訳料理を提案します。もともとこちらはお茶漬けを提供していたのですが、もともと「牛肉の水炊き」という名前で、回教徒の「涮羊肉(シュワンヤンロウ)」という羊の鍋を牛肉にアレンジして、ゴマダレで食べる「牛のすすぎ鍋」として発表します。たちまち評判となり、後に大阪のステーキ屋「スエヒロ」の三宅忠一氏が「シャブシャブ」と商標登録します。今や世界的にお馴染みの日本料理シャブシャブとなりました。



出汁はテールスープを使用しているのが特徴。シャキシャキ野菜と美味しいお肉でいただきます。 校友会でもよくお世話になってます。鍋好きの宮﨑会長がここでは鍋奉行に変身します(笑) 昭和22年鳥取へ帰り自ら設計した吉田医院を開院します。民藝建築を手がけ自ら設計した昭和23年鳥取民藝美術館(館蔵品5000点)、たくみ工芸店、昭和39年たくみ割烹を次々にオープンさせます。たくみ割烹では地元の素材の郷土料理や鳥取和牛の「シャブシャブ」を民藝の器で出しています。「職人の作った健全で素朴で、頑丈で美しい物こそが民藝品である。」民藝に囲まれた生活、この「美の王国」を璋也は目指しました。

文化活動では、戦後農業施策の植林により保存危機に面していた鳥取砂丘を天然記念物指定、国立公園指定へと導きました。昭和31年にはそのためにアピールしようと山下清を鳥取へ呼び砂丘を書かせ、他には志賀直哉、バーナード・リーチ、土門拳も招いています。



鳥取民藝美術館、たくみ工芸店、たくみ割烹

大正天皇が皇太子時代に山陰巡行で宿泊された建物「仁風閣」は、取り壊し寸前のところでした。これを阻止しようと璋也が中心となり保存活動を行いました。国の重要文化財指定を受け、 今や鳥取城跡の麓で燦然と輝き、鳥取の代表的な名所です。





祖父璋也がこよなく愛し、精力的に保存活動を行なった鳥取砂丘と仁風閣

璋也が自ら設計した民藝美術館は国の有形文化財指定を受けています。民藝美術館、たくみ工芸店、たくみ割烹店3つの民藝コーナーは鳥取の大切な資産として残されているのです。

そして、没後2年が経った昭和49年に生前の功績を認められ、鳥取市名誉市民の称号を贈られました。

### 鳥取県日本歯科大学校友会のつながり

~ 100年の時を駆け抜けた今田家4代、平林家、林家3代 ~

### 初代

伊藤 丈平 (8回卒) 今田哲哉の祖父



今田 晴隆 (32回卒) 今田哲哉の父



今田 哲哉 (新潟77回卒)



今田 和隆 (新潟108回卒) 今田哲哉の長男

























初代

平林 秀高 (4回卒) 平林 克之の父 鳥取県校友会会祖



2代

平林 克之(35回卒)



3代

平林 洋 (新潟73回卒) 平林 克之の女婿



### 初代

林 義勝 (19回卒) 林 伸伍、矗昶の父



### 2代

林 伸伍 (50回卒) 左 林 義勝の次男 林 矗昶 (58回卒) 右 林 義勝の四男 校友会史上最強の兄弟





### 3代

林 篤志 (新潟79回卒) 林 伸伍の長男



### 親子



清水 博 41回卒、清水 恵子 新潟70回卒



宮﨑 章 東京67回卒、宮﨑 章太 東京99回卒

### 幼馴染 幼小中高



伊藤 隼三 63回卒、伊藤 幸太 東京97回卒 宮崎 章 東京67回卒、吉田 章二 新潟68回卒



### 兄弟



林 伸伍 50回卒、林 矗昶 58回卒



八幡 真司 新潟84回卒、八幡 敏行 東京92回卒

### 同級生



中原 實 名誉学長、平林秀高 ともに4回卒



宇賀 春雄 教授、林 義勝 ともに19回卒



上村 貞、平林 克之 ともに35回卒



宮崎 章、山口 春美 ともに東京67回卒

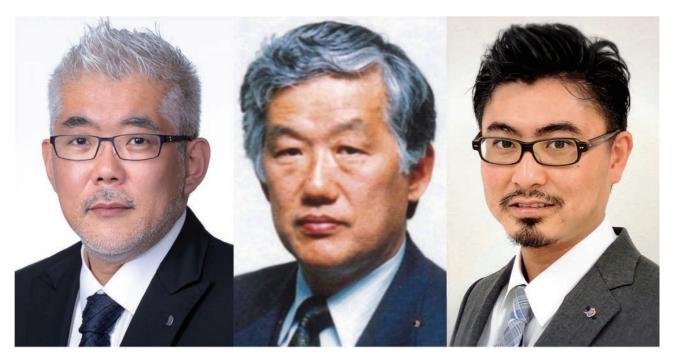


芹田 晃、廣田 吉明 ともに新潟69回卒

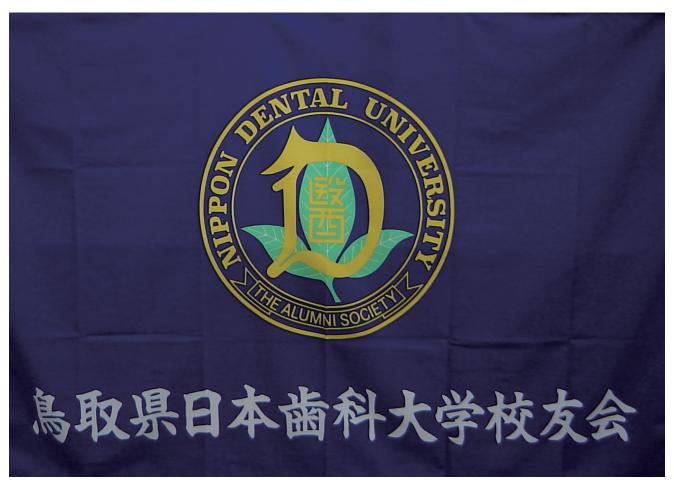


平林 律 東京84回卒、八幡 真司 新潟84回卒

### (番外!) 東京校硬式野球部3代



平林 律 東京84回卒、林 伸伍 50回卒、宮崎 章太 東京99回卒



設立100周年を記念して新調した新校友会旗

### 田obby為人名 標期操權

日本歯科大学校友会のホームページの中にHobbyな人々というコーナーがございます。 全国の校友の先生方の多彩な趣味を掲載しているのですが、今回は鳥取県日本歯科大学校友会版 として会員のご紹介を兼ねながら製作してみました。少々脱線した内容もございますが、これも ご愛嬌ということでご覧いただければ幸いです。

# 舞



平林 秀高 4回卒



会長自ら舞うお姿が美しく決まっている1枚。それにしてもこの頃の先生方の飲み方や写真の写り方は優雅かつ重厚感がありますね。我々も見習わないと。

### 苦



今田 晴隆 32回卒



昭和16年12月開戦時 日歯3年時 満19歳6ヶ月



昭和19年8月 軍医少尉時代 愛馬春月騎乗 淵23歳



(昭和十七年春 今田晴隆作詞)				三、胸の桜に 春風うけて				二、緑の圃の 繋すみれ				一、真澄の空に 遙かに関ゆ	
HE		20	-			-	440	-		-40	-	-	
和		若	75	191		蹼	集	禄		歌	.15	真	
+	サ	63	5	0	+	元	う	0	サ	-	0	澄	1
t	2	身	す	桜	7	我	我	3	7	若	108	0	-
年	+	胸		12	+	から	等	0	+	A	b	空	}
春	サッサ行こうよ足をそろえて	若い身胸に	鳴らす口笛 歌ごえに		サッサ行こうよ足をそろえて	讃え我が青春 心もおどる	7		サッサ行こうよ足をそろえて	歌へ若人 口笛吹いて	鳥の鳴り 春のうた	42	
	ت			春	=	春		聚	=		春		
9	3	血潮がおどる	歌	風	3		離	す	3	笛	0	施	
田	L	摊	=	3	ょ	0	共	3	太	吹	3	か	
時	足	が	元	1)	足	4	12	n	足	67	た	=	2
膝	を	お	E	7	を	お			を	T		1525	
作	÷	7			老	7			老			砂	
895	3	3			3	8			3				
~	夫				克				表				
	T				7				7				
	-								-				

在学中、同好会を作り皆と旅しながら詩を書かれていたそうです。

太平洋戦争中書かれた詩の数々。死と隣り合わせだった時代に情感溢れる内容は優しく温厚だった晴隆先生の人柄を現しています。

# 圃



平林 克之 35回卒



鳥取県歯科医師会へ寄贈された "板塀と猫"



鳥取県西部歯科医師会へ寄贈された "金剛力士像"

大学を中退してまで溢れる情熱を捧げた絵画の道、日本歯科大学に再入学して からは中原實名誉学長の手ほどきを受け全国的な絵の巨匠となりました。



還暦を過ぎればあとはおまけなり 古稀を過ぎればおまけのおまけ

庸夫七十難成事 古稀を迎えて感有り 腰折れ一首

願越耄年得達期 顧思已往自嘲嗤 庭際蕾櫻英未發 春回偏喜脱冬衣

不徑旬日散霏霏 遙見鳧群向北飛

林先生の自作の漢詩より

寒開

話

東君借間何邊到寒雀群來頻訴飢

嘆春回遅

未見南檐梅蕾枝前庭残雪緑参差



完 了 所 東京都 千代和区部士冠町 日本衛科大学新聞 和語 九尺 加8311・8314 編集課 発行人 林 即任 恕 十円

大学新聞の編集長としても ご活躍されてました

林 伸伍 50回卒

代表的な著書として。塵寰閑話録(ちりのよのあだしごと)

多趣味の林先生において何と言っても漢詩、漢文!校友会のホームページの "Hobbyな人々"にもご紹介されています。他沖縄空手、狩猟、ワインなど。



宮崎 章 東京67回卒



師匠の林矗昶先生(58回)と馬からはたくさんのことを学びました。

生涯の師匠より手ほどきを受けた馬と雀の道。五感を研ぎ澄ませ物事を観察し、 流れを察知し、先を読む能力を道半ばであるが得心。勝敗は二の次、時の運。

# 伝



吉田 章二 新潟68回卒



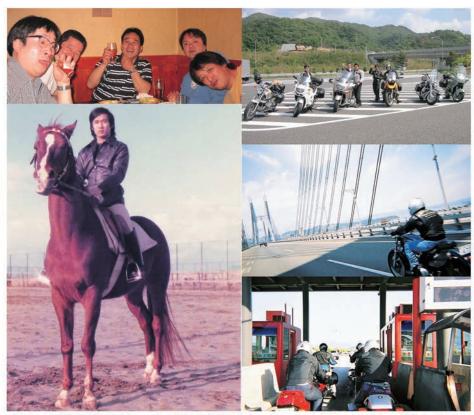
副会長の私が具を入れ、鍋奉行の会長が食べ、専務がアクを取るという伝統のテーブルマナー?で楽しくしゃぶしゃぶをつついています。 さりげなく食べ放題を要求する専務との水面下の戦いは続く… (笑)

祖父より受け継いだ民藝文化を守り伝えることがライフワークです。たくみ割烹のしゃぶしゃぶ発祥の味をこれからも校友会員に伝えていきたいです。

# 題区



今田 哲哉 新潟77回卒



鳥取県東部歯科医師会のバイク好きが集結し、四国、九州にツーリングをした思い出の写真。右下は瀬戸大橋。渡り終えるといよいよ四国です!

生涯の趣味である単車でのツーリング。気の置けない友人と旅をしながら風になる瞬間を共有するのはこの上なく楽しい時間です。馬術部時代の写真も掲載します。





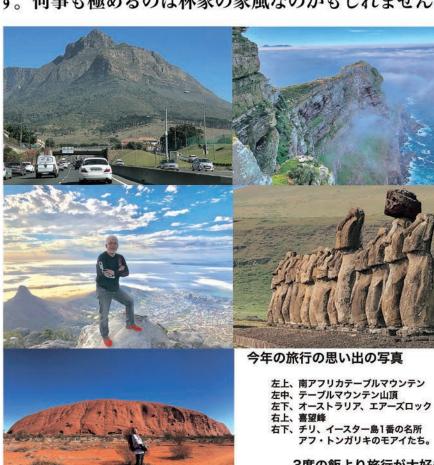


ドラムを奏でている写真。プロ級のオーラが伝わってきます!

大学時代は軽音楽部に所属し、現在までドラムとギターに魅了され趣味の域を 超えた実力をお持ちです。何事も極めるのは林家の家風なのかもしれませんね。



平林 律 東京84回卒



3度の飯より旅行が大好き!

人生共々旅は続きます!

# 酒





八幡 敏行 東京92回卒



今宵も兄弟水入らずの酒宴は続く

下戸が多い校友会の中で随一の酒豪!時間をかけて静かに粛々と飲むスタイルで 後輩達もいつのまにか酒量が増えていくかも?

### 当



八幡 敏行 東京92回卒



伊藤 幸太 東京97回卒



回卒 宮崎 章太 東京99回卒



専務の無茶振りでやらざるを得ない時もありますが(笑)楽しみながら先輩達を 笑わすことを学んで校友会の一員として成長していきたいと思います。



鳥取県日本歯科大学校友会の100年の歴史を写真とともに振り返ります。

### 明治

### 日本歯科大学校友会の誕生

明治40年(1907年)6月1日 創立者 中原市五郎 東京市麹町区に私立共立歯科医学校を創立明治42年(1909年)6月6日 日本歯科大学校友会(当時共立歯科医学校)発足



日本歯科大学は創立者中原市五郎先生らによって東京市麹町区に明治40年(1907年)6月1日私立 共立歯科医学校として創立され、校友会は2年後の明治42年(1909年)6月6日 日本歯科大学校友 会(当時私立日本歯科医学校)として発足し、同年10月3日に、発会式を挙行しました。左から創 立当時の母校、2番目が東京大手町に建立されました本学発祥の地の記念碑です。3番目が創立者 中原市五郎先生(1867~1941)右端は中原市五郎先生の生涯を記した小説駒山の鷹(くざんの たか) 1909年(明治42年) ・伊藤博文、ハルピンで安重根に殺害される

1910年(明治43年) ・日韓併合条約締結

1912年(明治45年) · [7月29日]明治天皇崩御

・[7月30日]大正に改元

### 大正

### 鳥取県日本歯科大学校友会の誕生

大正4年(1915年)本県最初の卒業生 平林秀高(4回)当時 私立日本歯科医学校を卒業 大正8年(1919年)平林秀高 米子市にて開業

時代は大正に変わり、大正4年(1915年)本県最初の卒業生4回卒の平林秀高先生が大正8年(1919年)地元の山陰の商都米子市にてご開業されました。鳥取県日本歯科大学校友会の会祖として校友会初代会長を35年間努め、第2代鳥取県歯科医師会会長としても1期2年ご活躍されました。この功績を称えられ昭和45年3月29日に現在でも鳥取県歯科医師会でただ1人の名誉会員の栄誉に浴しました。

1914年(大正3年) · 第一次世界大戦開戦

1917年(大正6年) ・ロシア革命

1920年(大正9年) ・(1月) 国際連盟発足(本部はスイスのジュネーブ)

1922年(大正11年) ・(12月) ソビエト社会主義共和国連邦が誕生する

1923年(大正12年) · [9月1日]関東大震災(M8.1)発生 死者10万人超



左から鳥取県日本歯科大学校友会会祖、初代会長平林秀高先生、2番目は舞に興じる平林会長、右の 2枚が先生の故郷、大正時代の米子本通り商店街と米子城址。

### 第2代学長中原 實日本歯科大学名誉学長、元日本歯科医師会会長

芸術、教育、医療、大学人として一生を送る。 自ら絵筆を取り、二科会理事の任にも就く。

平林秀高先生は、中原市五郎先生のご子息で第2代学長、中原實先生(1893~1990)と第4回卒の同級生でもあります。中原實先生は日本歯科医師会会長を長年務められたのをはじめ芸術、教育、医療、大学人として一生を送られました。特に絵画においてはハーバード大学歯学部ご卒業後、渡欧したフランスにて西洋の絵画芸術に魅せられ絵筆を取り、藤田嗣治、モヂリアニや若きピカソとも知己を得て、後年二科会理事の任にも就かれました。「伝説の中原實」という書籍はご子息の中原泉先生が、父、實先生を記した著書でございます。



日本歯科大学名誉学長 中原 實先生



左と中央、平林会長と中原實先生。 右が中原泉先生著、伝説の中原實



中原實先生の代表的な絵画。左から大正13年(1924年)作の特に代表的な作品ヴィーナスの誕生、続いて同じく大正13年作の海水浴、そして、大正14年(1925年)作の乾坤、同じく大正14年作のアトミックNo2。最後に、昭和4年(1930年)作の猫の子。父である市五郎先生はこの絵を凝視し、息子の画家としての才能を悟ったと言われる作品です。フランスから帰国後、前衛芸術運動に先駆、大正、昭和前期のアバンギャルド絵画の旗手と謳われました。

### 平林 克之(35回)元鳥取県歯科医師会副会長



そして中原實先生の絵画の才能は平林秀高先生のご子息35回卒の克之先生(左)に受け継がれ、直々に絵の手ほどきを受けた克之先生は天賦の才をさらに開花させ、美術年鑑にも克之先生の作品が掲載されるなど芸術界でもご活躍されました。代表的な作品としては、中央の鳥取県歯科師会館に寄贈された板塀と猫、右側の鳥取県西部歯科医師会に寄贈された金剛力士像。

1925年(大正14年) ・(4月) 治安維持法が制定される

1926年(大正15年) ・[12月25日]大正天皇崩御 ・[12月25日]昭和に改元

### 昭和

### 昭和9年(1934年)日本歯科医学校付属病院 山口文象氏設計建築



そして、激動の時代昭和になり、實先生は高熱隧道で有名な黒部川第2発電所(左)を設計した山口 文象氏と意気投合し、昭和9年に当時東洋一の歯科病院と謳われた旧付属病院(中央)を建築されま した。これは戦前の名建築と高く評価されており、昭和47年に岡田新一氏が設計、建築された新潟生 命歯学部(右)と共に建築関連の賞を数多く受賞しております。



エ、胸の桜に 春風うけて 鳴らす口笛 歌ごえに 若い身胸に 血潮がおどる 二、緑の圃の 紫すみれ 集う我等と 踏共に 振う我等と 踏共に

サッサ行こうよ足をそろえ歌へ若人 口笛吹いて





太平洋戦争中、32回卒の今田晴隆先生は大日本帝国陸軍軍医少尉として従軍し、(左側2枚)(中央は戦地で作詞した詩)敗戦後はシベリアで捕虜として苦難の時代をお過ごしになられましたが、過酷な状況の中軍医としての責務を全うし無事生還いたしました。(右側2枚)

1927年(昭和2年) (3月)昭和金融恐慌

1929年(昭和4年) ・世界恐慌

1931年(昭和6年) · 満州事変

1932年(昭和7年) ・(5月15日) 五・一五事件→海軍の青年将校が犬養毅を暗殺。

1936年(昭和11年) ・(2月26日) 二・二六事件→陸軍の青年将校が要人を襲撃。

1939年(昭和14年) (9月1日)第二次世界大戦開戦

1940年(昭和15年) ・(9月) 日独伊の三国同盟が成立

1941年(昭和16年) · (12月8日) 真珠湾攻擊→太平洋戦争開戦

1945年(昭和20年) ・(8月6日) 広島に原爆投下 ・(8月9日) 長崎に原爆投下

·(8月15日)太平洋戦争終結

昭和26年(1951年)平林秀高 第2代鳥取県歯科医師会長に就任(昭和28年まで)



戦前の写真の大半が鳥取大火の影響で焼失、亡失したのが惜しまれますが、左の写真は、昭和26年、平林秀高先生が会長時代の校友会の宴会写真です。後列中央が林伸伍先生のお父様の19回卒の林義勝先生、右から3番目が32回卒今田哲哉先生のお父様の今田晴隆先生です。なお、昭和26年に平林秀高先生は第2代鳥取県歯科医師会会長に就任いたしました。右の写真は大山に遊ぶ校友会の先生方の写真です。服装とステッキを携えるお姿に時代を感じさせます。

1946年(昭和21年) ・(11月3日)日本国憲法公布(施行は1947年5月3日)

1950年(昭和25年) (6月25日) 朝鮮戦争勃発

1951年(昭和26年) ・(9月8日) サンフランシスコ平和条約締結→連合国による占領が終結、 日本は主権回復

·(9月8日)日米安全保障条約締結

1954年(昭和29年) ・自衛隊設置



平林秀高先生が鳥取県歯科医師会長と校友会会長を勇退され、昭和29年より左端写真中央の田村威先生が第2代校友会長に就任されました。林伸伍先生が卒業後入局した口腔外科の大先輩だったそうで大変可愛がっていただいたそうです。中央2枚同じ頃中原實先生が伊藤歯科医院(現今田歯科医院)においでになった時の写真です。右端の写真は林義勝先生と同級生の本学口腔外科学教授宇賀春雄先生が先生のご実家に訪問された時の記念写真です。後列左が20歳の時の林伸伍先生です。



昭和32年に鳥取県、島根県両校友会の合同有志校友会の1日を追った写真です。林義勝先生の書き込みが奮っている写真です。



昭和34年に開催された平林秀高先生の古希の祝いの会の写真です。舞に興じる秀高先生、右下の日本 酒を煽っている方が第6代鳥取県歯科医師会会長を務められた38回卒の清水正史先生です。



昭和35年頃の歯科医師会の中国五県の野球大会の風景です。始球式は平林秀高先生が務めています。 ユニフォーム姿が時代を感じさせます。

1956年(昭和31年) ・(12月) 国際連合に加盟する

1962年(昭和37年) ・(10月) キューバ危機

1964年(昭和39年) ・(10月1日) 東海道新幹線開業 ・(10月10日) 東京オリンピック開催



左の写真は昭和30年に鳥取県で開催されました中国歯科医学大会のパンフレットの表紙です。 田村先生と今田晴隆先生のお名前が見られます。右の写真は昭和40年頃の岡山県で開催されました歯学研修会の集合写真です。交通事情が不便の中これだけ多くの校友が集うのは校友会の結束の強さを物語っています。この頃中原實先生は日本歯科医師会会長としてご活躍されています。

### 昭和47年(1972年)新潟歯学部(現新潟生命歯学部)開設



(写真:新潟歯学部の建築現場を俯瞰する。〈中央 部分が工事中,下方が日本海側〉。 同起工式での 心細げな中原 泉)

昭和47年 4 月11日,初めての入学式。本館 前は寂しいが,まだ講堂がなかったので, 式は本館 4 階の大会議室で開催された。入りきれない父母が,廊下にあふれていた)



**新潟歯学部の設立準備に奔走されていた頃の写真(前列中央)** 

設立なった新潟歯学部 (現新潟生命歯学部) 岡田新一氏設計

昭和30年代後半頃は国内全体の歯科大学、大学歯学部は本学を含め俗にいう旧設6校と大阪大学歯学部の7校しかありませんでしたが、歯科医師不足が喫緊の課題となり愛知学院大学歯学部を皮切りに新設ラッシュが始まりました。日本歯科大学も国からの要請を受け第2歯学部として日本海側最大の都市新潟市に新潟歯学部(現新潟生命歯学部)を昭和47年に開設しました。



S.50.6.27 日本歯科大学校友会鳥取県、島根県、総会 於玉造温泉 皆美別館

こちらは昭和50年に開催された島根県との合同の校友会総会の集合写真です。前列左から3番目の方は中原泉先生のお兄様の49回卒の中原爽先生です。爽先生は本学卒業後日本大学医学部をご卒業され医師免許もお持ちです。日本歯科大学麻酔学教授、歯学部長、学長、理事長を歴任された後、日本歯科医師会会長に就任し参議院議員も2期お務めになりました。親子2代で日本歯科医師会会長に就任されたのはこのお二人のみです。

1969年(昭和44年) ・(1月) 東大安田講堂事件 ・(7月) アポロ11号が人類初月面着陸

1970年(昭和45年) ・(3月)日本万国博覧会(大阪万博)開催(3/14~9/13の183日間)

1972年(昭和47年) ・(2月) 札幌オリンピック開催 ・(2月) あさま山荘事件

・(5月15日)沖縄がアメリカから返還される

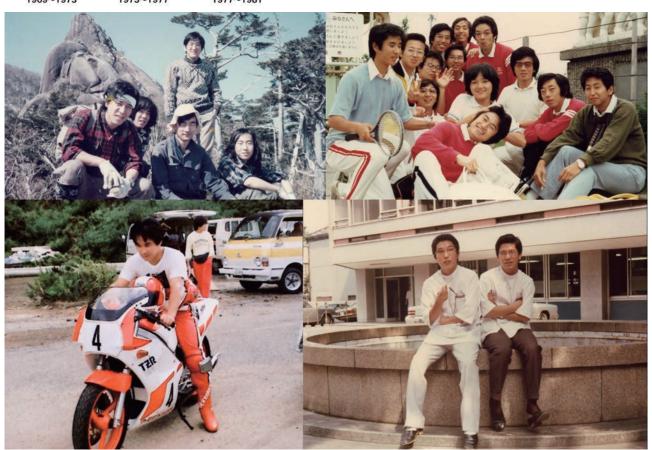


3代会長 八百谷一洋 (39回卒) 1969~1973

4代会長 上村 貞 (35回卒) 1973~1977

5代会長 清水 博 (41回卒) 1977~1981

この頃田村会長より第3代会長に39回卒八百谷一洋 先生、第4代会長に35回卒の上村貞先生、第5代会 長に41回卒の清水博先生に受け継がれております。



この頃宮崎会長、吉田副会長、今田先生などの世代が東京、新潟で学生生活を謳歌しておりました。会長はワンダーフォーゲル部、副会長は硬式テニス部、今田先生は入学当時馬術部に所属し、現在も1番の趣味であるバイクに跨るものを変え、それぞれご活躍されておりました。右上の左端が会長、右上右から2番目が副会長、左下の写真が今田先生、右下の右側の写真が会長の当院時代の写真でございます。グループサウンズ全盛の時代、会長と副会長の髪型が時代を感じさせます。



この写真、何気ない山での集合写真ですが、後列右より2人目が高橋連盟会長、右端が羽村章前生命 歯学部長、後列右側が倉治ななえ前日本歯科医師会常務理事、後列左端のメガネをかけている方が島 根県日本歯科大学校友会長の吉田敬先生です。そして、後列中央のオレンジのシャツを着ている長髪 の男性が会長です。そして昭和56年より第6代校友会会長に林伸伍先生が就任しました。

1976年(昭和51年) ・(2月) ロッキード事件

1986年(昭和61年) ・(4月) チェルノブイリ原発事故(ソ連)

1989年(昭和64年) ・[1月7日]昭和天皇崩御 ・[1月8日]平成に改元



こちらが大正、昭和にご活躍されておられた校友の先生方です。

### 平成

平成5年(1993年)林伸伍(50回)第10代鳥取県歯科医師会長に就任(平成23年まで)





このコーナーでは趣味の世界でも御活躍されているホビーな校友の先生方を紹介しています。 第3回は先頃「塵寰閑話録(ちりのよのあだしごと)」を上梓された 「漢字の連人」林伸伍先生です。



林 伸伍先生

50回卒

鳥取県歯科医師会会長

林伸伍先生(50回卒)は幼少より漢文、漢 詩に親しみ、最新作「塵寰閉話録」の副題にも 自作の漢詩から「練武尚文選學醫 顧思己往自 蝴瞳」の語句を使っておられます。文学青年で あられた先生が口腔外科の宇賀春雄教授の導き で父君の歯科医業を継ぎ、歯科医師となられて およそ半世紀、その間折にふれて発表される文章、講演、漢詩によた生の漢字に対する造鮨の 深さと情熱が見られます。

「推敲」という言葉の語源についても唐の賈 島が「僧は推す月下の門」の句において「推」 を「敵」に改めた方がいいかどうかと苦心する 故事によるという説明だけでは飽き足らず、先 生は原典の五言律時を探求します。



時代は平成に変わり、50回卒の林伸伍先生が平成5年から18年間にわたり、第10代鳥取県歯科医師会会長としてご活躍され、多大な功績を残し平成23年に勇退されました。

林先生といえば、野球、空手、狩猟、ワインなどあまたの趣味をお持ちですが、その中でも校友会のホームページの「Hobbyな人々」にもご紹介されておりますが何と言っても達人と言われるほどの漢詩、漢文でございます。



平成6年度 鳥取県歯科医師会 新執行部 平成6年4月14日 於ホテルニューオータニ島取

鳥取県歯科医師会 平成15·16年度 役員理事

左の写真は会長就任当時の写真で前列右から2番目に八百谷先生、後列右端が清水博先生。右の写真は2列目左から2番目に宮﨑会長、3列目左から2番目に廣田先生のお顔も見られます。

1989年(平成元年) ・[11月10日]ベルリンの壁が壊される

1990年(平成2年) ・[10月3日]東西ドイツ統一

1991年(平成3年) ・(1月) 湾岸戦争勃発(~2月) ・(12月) ソ連崩壊 ・バブル経済崩壊

1995年(平成7年) · [1月17日]阪神淡路大震災(M7.3) 発生

2001年(平成13年) ・[9月11日]アメリカ同時多発テロ



### 平成18年(2006年)日本歯科大学創立100周年

林先生が会長在任中の2006年、日本歯科大学は、100周年の記念式典を帝国ホテルにて盛大に行いました。2016年には110周年記念式典も、ホテルニューオータニにて全国から校友が集い、これまた盛大に行われました。右下のお写真は中原泉先生です。

### 中原 泉先生のご紹介

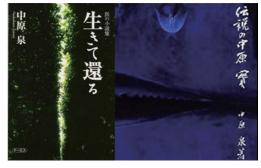
中原泉先生は、中原實先生のご次男で学生時代は林伸伍先生と共に日本歯科大学新聞の編集に携わっておりました。本学54回卒業後、新潟歯学部の設立準備にご尽力され、新潟歯学部長ののち日本歯科大学理事長、学長、校友会会頭に就任されました。また、新潟歯学部内の医の博物館という施設の館長も務めています。平成元年(1989)9月4日、開館。竣工後、毎日陳列ケースに展示物を並べるのに3ヵ月かかったそうです。古医書や医療器具等が、広くはないがモダンな室内を所狭しと埋めつくし、収蔵品は約5,000点。 すべて本物で、すべて寄付・寄贈に由りました。公共の博物館として県の指定をうけわが国最初の医学博物館であり、30年たった現在でも唯一の医学博物館であります。新潟にお立ち寄りの際は是非ご覧いただきたく思います。文学をこよなく愛し、中原泉のペンネームにて数々の著書を出版されております。大学機構改革や学部名称変更も行い現在、日本歯科大学の総帥としてお元気にご活躍されてます。











多歯多才の校友達



平成18年(2006年)の産経新聞の記事ですが多士済々の校友がご紹介されております。中原實先生はもちろんですが、特筆すべきは、箱根駅伝に17回出場経験のある陸上部、1920年にベルギーアントワープオリンピックに出場した陸上部OBの存在です。



平成に各クラブで活躍する校友たちの写真です。左が硬式野球部の 平林律、右側上が水泳部の八幡敏 行、真ん中が少林寺拳法部の伊藤 幸太、下が硬式野球部の宮﨑章太。



今から10年~15年ほど前の校友会の写真です。左端の写真は八百谷先生と県歯常務理事時代の宮崎会長との宴会での写真。2番目はそして県歯新入会員入会挨拶を兼ねたカラオケを披露しているのが入会当時の平林律。右端は林伸伍先生と弟の矗昶先生のご兄弟の貴重な2ショット。

2005年(平成17年) ·[4月25日]JR福知山線脱線事故

・(9月) リーマンショック 2008年(平成20年)

2011年(平成23年) ·[3月11日]東日本大震災(M9.0)発生

2016年(平成28年) ・[4月16日]熊本地震(M7.3)発生

2019年(平成31年) ・[4月1日]新元号「令和」を発表

#### 斯界のトップリーダーとして

卒業生も21,000名を超え、業界4団体のトップまた2名の国会議員をはじめ、斯界のトップリーダーと して多くの校友がご活躍されているのは我々の誇りであり、励みでもあります。



日本歯科医師会長

日本歯科医学会会長 日本歯科医師連盟会長 全国歯科医師国民健康 堀 憲郎先生 68回卒 住友 雅人先生 58回卒 高橋 英登先生 66回卒 保険組合理事長 三塚 憲二先生 60回卒

衆議院議員

衆議院議員 長谷川 嘉一先生 67回卒 三ツ林 裕巳先生 (特)

#### 平成を駆け抜けた校友達



#### 平成29年(2017年)林 伸伍 勇退により、現校友会長 宮崎 章 が就任

林伸伍先生が、36年間の会長職にピリオドを打ち第7代会長に宮﨑章先生が就任しました。これ は慰労会の風景です。いつも変わらず威風堂々と写真に収まっておりますが満面の笑顔をした林先 生がとても印象的でした。



平成29年(2017年)中国地区役員連絡協議会 平成30年(2018年) 歯学研修会 当番県担当

宮崎会長の元、新執行部がスタートし、就任早々平成29年には中国地区役員連絡協議会の当番県をつとめ、昨年は中国地区歯学研修会の当番県を役員一同一致団結し、重責を果たしました。



### 校友子弟の入会が続く。校友会にようこそ!



この頃から校友の子弟の東京92回卒八幡敏行、東京97回卒伊藤幸太、東京99回卒宮﨑章太の若手の会員が相次いで入会し、会が活気づいてきました。将来が楽しみな3人をこれから大切に育てて行きたいと思います。

#### 平成31年鳥取県歯科医師会新年祝賀会



こちらは今年の新年に行われた鳥取県歯科医師会新年会で来賓でおいでになった日歯連盟会長の 高橋先生と同じく同窓で日歯連盟常任理事の東京72回卒の小西尚先生との一コマです。

#### 現在の鳥取県日本歯科大学校友会会員19名の顔写真



そして現在は19名の会員の先生方で組織されてます。39回卒の八百谷先生と99回卒の宮崎章太までちょうど60年の差があります。これからも皆で次の100年の歴史を紡ぎ、伝統を培ってまいります。



そして最後に貴重なお写真と絵画を快くご提供いただいた今田哲哉先生に心より御礼申し上げます。



親睦と相互扶助の会訓を忘れずに、皆が仲良く助け合う伝統を今も昔もこれからの100年も…

# 턜

# 鳥取県日本歯科大学校友会

TOTTORI Prefecture The Nippon Dental University Alumni Society

これからもどうぞよろしくお願いいたします

### 鳥取県日本歯科大学校友会会員紹介 令和元年7月現在 19名 (卒回順)



39回卒 八百谷一洋



名誉会長、顧問 50回卒 林 伸伍



63回卒 伊藤 隼三



東京67回卒 会長 宮崎 章



新潟68回卒 副会長 吉田 章二



新潟69回卒 芹田 章



新潟69回卒 廣田 吉明



新潟70回卒 清水 恵



新潟73回卒 平林 洋



新潟77回卒 監事 今田 哲哉



新潟77回卒 南場 美弥



新潟79回卒 林 篤志



新潟80回卒 王 秀樹



東京04四年



制為04凹平 常務理事 八幡 真司



新潟85回卒 水口 好胤



東京92回卒 八幡 敏行



東京97回卒 伊藤 幸太



東京99回卒 宮崎 章太

### 鳥取県日本歯科大学校友会物故会員紹介 令和元年7月現在 18名 (卒回順)







8回卒 伊藤 丈平



19回卒 林 義勝



25回卒 2代会長 田村 威



32回卒 今田 晴隆



35回卒 4代会長 上村 貞



35回卒 平林 克之



38回卒 清水 正史



41回卒 5代会長 清水 博



58回卒 林 矗昶



東京67回卒 山口 春美

他、野谷 昌俊 (6回) 岸本 卓志 (8回) 森井 立吾 (12回) 平井 萬亀雄 (18回) 酒井 信孝 (21回) 堀 慶輔 (23回) 清水 敦也 (新潟68回)

謹んでご冥福をお祈りいたします。

#### 鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年記念式典、記念祝賀会

令和元年6月29日(土)午後5時より「ホテルニューオータニ鳥取 鳳凰西の間」に於いて、「鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年記念式典、記念祝賀会」が鳥取県日本歯科大学校友会平林 律専務理事(84回)の司会進行により開催された。

初めに、鳥取県日本歯科大学校友会吉田章二副会長(68回)より開会の辞があり、続いて、鳥取県日本歯科大学校友会宮﨑章会長(67回)より主催者挨拶が行われた。

#### <主催者挨拶>

日本歯科大学理事長・学長兼日本歯科大学校友会中原泉会頭(54回)、日本歯科大学校友会近藤 勝洪会長(54回)をはじめご臨席頂いた先生方に謝辞を述べられた。

まず、鳥取県校友会の歴史についてふれ、1919年に平林秀高先生(4回)が米子で開業をされ、その年、平林先生を含めた4名の先生により、鳥取県日本歯科大学校友会が設立されたことを述べられた。次に、校友のエピソードとして平林秀高先生のご子息である克之先生(35回)が中原寛先生(4回)に絵の手ほどきを受け、歯科医師でありながら画家として個展を開き多くの絵を残されており、鳥取県歯科医師会と西部歯科医師会に寄贈された絵画は、今も会館に飾られている。親交の深かった今田晴隆先生に送られた大山の絵を壇上に上げ紹介した。そして、現在のこの絵の持ち主である今田哲哉先生のお父様は晴隆先生、おじいさまは本会の設立者の1人である伊藤丈平先生(8回)であり、ご長男の和隆先生(108回)は今年卒業されました。今田家4代すべて日本歯科大学出身であり、おじい様のご卒業からご長男のご卒業までちょうど100年になることを紹介した。最後に、記念誌に寄稿頂いた先生方へのお礼を申し上げ、本日は楽しい時間を過ごして頂きたいと締めくくった。

次に平林律、八幡真司(84回)、八幡敏行(92回)、伊藤幸太(97回)、宮﨑章太(99回)に よる100周年記念のリードが披露されたのち、校歌斉唱が行われた。続いて、本校友会100年の間 にご逝去された会員の先生方に弔意黙祷が捧げられた。

この後、来賓として初めに日本歯科大学校友会中原泉会頭、続いて日本歯科大学校友会近藤勝洪会長、日本歯科医師連盟高橋英登会長、鳥取県歯科医師会渡辺隆夫会長、日本大学歯学部同窓会鳥取県支部樋口壽一郎支部長、東京歯科大学同窓会鳥取県支部田本晃支部長の順にご挨拶頂いた。

#### <日本歯科大学校友会中原泉会頭挨拶>

鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年、そして現有19名という会員の先生方が、100年の歴史を綴って本日このような記念の会を開かれたことに大変感激し感服していると述べられた。そして鳥取県の校友との思い出として、半世紀ほど前の富士見祭で、学生であった林伸伍先生(50回)たちが中心となり、国試不要論をテーマに議論し大変盛り上がった学祭を見て、学生なのにすごい人がいるものだと感じた事、そしてご長男の林篤志先生(79回)が1年生の頃、教授室に招き言葉を交わした事など話された。

さらに、100周年記念誌の仮刷りを読んだ中に、平林律先生を含む成績不良の学生達を学長室に呼び出し叱責した。とあるが、学生を叱責した記憶はないのだが、そのことが彼の刺激になったという事は大変うれしく感じる。との話しをされ最後に100周年おめでとうございますと結ばれた。

#### <日本歯科大学校友会近藤勝洪会長挨拶>

鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年記念式典並びに記念祝賀会開催についてお祝いを述べられた。そして、歴史は先輩がはぐくみ育て、現役世代がいかに将来へ語り継いでいくかであり、その意味で鳥取県はいい先輩に恵まれ、いい後輩が育っていることが素晴らしいと話された。最後に鳥取県校友会設立100周年という素晴らしい会にお招きいただきありがとうございます。これからも母校の発展をお祈り頂くようお願いを申し上げます。おめでとうございます。とご挨拶された。

次に来賓の先生方と、ご参加いただいた県内の先生方の各歯科大学、大学歯学部の同窓会、校友会名がご紹介された。続いて本日参加の鳥取県日本歯科大学校友会会員の紹介が行われた後、祝電披露が行われた。それに続き、「鳥取県日本歯科大学校友会のあゆみ」と題し、平林専務理事のナレーションのもと、鳥取県日本歯科大学校友会の歴史がスライドで紹介された。

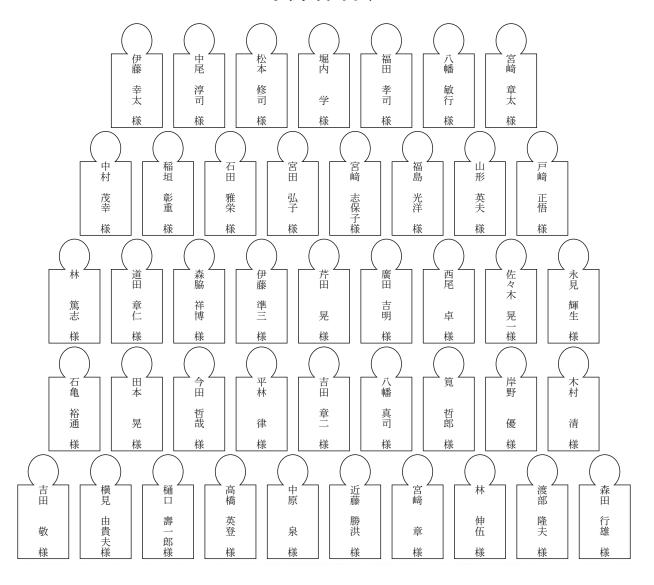
そして、岡山県日本歯科大学校友会横見由貴夫会長(64回)による乾杯で祝宴となった。 祝宴が進む中、表彰式が行われ、林伸伍先生が鳥取県日本歯科大学校友会名誉会長に推挙され、 今までの功績に対し感謝状が贈られた。これに対し林伸伍名誉会長より謝辞が述べられた。 最後に、広島県日本歯科大学校友会森田行雄会長(65回)による万歳三唱の後、鳥取県日本歯科 大学校友会八幡真司常務理事による閉会の辞で終了した。

そのあと2次会、3次会、4次会と続き、深夜まで盛会であった。ご臨席を賜った来賓の先生方を はじめ、総勢47名の素晴らしい会になりましたこと、この場をお借りして心より御礼申し上げま す。



鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年記念式典・記念祝賀会 令和元年6月29日 於 ホテルニューオータニ鳥取

### 全員集合写真





日本歯科大学出身者集合写真



中原会頭と近藤会長を中心に県内校友会員集合写真



県内校友会員集合写真



開会までのひと時。開会の辞 副会長 吉田章二



主催者挨拶 会長 宮﨑 章



会長の挨拶を聞き入る 監事 今田哲哉

# 祝辞、主催者ごあいさつ



# 鳥取県日本歯科大学校友会 会長 東京67回卒 宮﨑 章

本日は月末のお忙しい中、鳥取県日本歯科大学校友会創立100周年記念式典、記念祝賀会に多くの皆様方にご列席を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。主催者として一言ごあいさつ申し上げます。

本日は多くのご来賓にお越し頂いておりますが、まず、日本歯科大学学長、日本歯科大学校友会会頭であります中原泉先生におかれましては、大変ご多忙の中ご来鳥頂き、ご臨席賜りました事は、鳥取県日本歯科大学校友会にとりまして、この上ない名誉であります。心より感謝申し上げます。

次に全国9000名近い校友のトップであります、日本歯科大学校友会会長である近藤勝洪先生にお かれましては、他県にも出張依頼がある大変お忙しいなか、この鳥取県にお越し頂きました事、 これもまた、誠に嬉しく光栄に存じます。

そして、日本歯科医師連盟会長の高橋英登先生にもご臨席を賜りました。高橋会長は本学の校友であり、私が学生時代所属しておりましたワンダーフォーゲル部の一学年上の先輩でもございます。明日は鳥取県歯科医師会主催の学術講演会でご講演頂きますが、高橋先生、何卒宜しくお願いたします。また、皆様も是非ともご参加のほどお願い申しあげます。

また、中国地区の各県の校友会会長にも遠路お越し頂きました。岡山県横見会長、広島県森田会長、島根県吉田会長、ありがとうございます。

その他、鳥取県歯科医師会を代表して渡部隆夫会長にご臨席賜りました。感謝申しあげます。そして本日は特別に13校もの歯科大学、大学歯学部出身の県内の先生方にも多数ご臨席頂きました。誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

さて、この度創立100周年を迎えるにあたって、本校友会の歴史を簡単にご紹介させて頂きます。 1915年大正4年に米子市の平林秀高先生が、日本歯科大学の前身である日本歯科医学専門学校を ご卒業されました。この第4回卒業者の中に中原實名誉学長がいらっしゃいます。その後1919年 大正8年に平林先生が米子市でご開業され、この年に野谷昌俊先生(第6回)伊藤丈平先生(第8 回)、岸本卓志先生(第8回)の4名の先生方が鳥取県校友会を設立した記録が残されておりま す。本校友会の歩み、歴史につきましては後ほどスライドにて、本校友会の平林専務理事より説明 がありますのでご覧いただければと思います。

ここで皆様に、ひとつのエピソードをご紹介致します。本日ステージの横に一枚の絵画を置かせて頂きました。この絵の作者は、第35回ご卒業の平林克之先生です。

平林克之先生は、日本美術年鑑にその名前を残されており、画集も多数出されております。私共校 友会の誇れる大先輩のお一人でございます。私がお聞きしたお話しですが、平林克之先生の絵の 指導者は、何と中原實名誉学長とのことであります。中原實先生は、当時、絵画の世界において は、二科展で知られる二科会の理事をされておられ、岸田劉生と並び称されるほど有名な画家で ありました。その後、中原實先生は日本歯科医師会会長としても手腕を発揮され、長きにわたり ご活躍されました。まさに歯科界の巨人であります。

この絵の題名は大山ですが、雄大な大山の姿が描かれている素晴らしい絵でございます。この絵画は、平林克之先生と親交のあった第32回ご卒業の今田晴隆先生に、贈呈されたものであります。本日は特別にご子息の第77回ご卒業の今田哲也先生にお持ち頂きました。

今田哲哉先生のお父様が今田晴隆先生、ご祖父さまが鳥取県校友会の設立者のお一人である伊藤 大平先生であり、今田哲哉先生のご長男、第108回ご卒業の和隆先生は、今年日本歯科大学新潟 生命歯学部をご卒業されました。第8回卒業のご祖父さま、第108回卒業のご子息と、見事にぴっ たり100年の年数が一致いたします。この事実は、100周年にふさわしい事象であり、今田家親子 4代が、全て日本歯科大学出身者というのは、言ってみれば奇跡的な巡りあわせではないでしょう か。そして何よりこの一枚の絵を通して、母校の偉大なる中原實名誉学長と本校友会との関わり に驚きと同時に大きな誇りを感じる次第です。

この100周年を記念して、現在記念誌を製作中でございます。本日のお写真を編集したら完成です。製本に少し時間がかかりますが、遅くても8月中には皆様のお手元にお届けできると思っていますので今暫くお待ち頂きたいと存じます。

最後に、この記念誌にご寄稿頂きました中原学長、近藤校友会会長をはじめ、諸先生方にこの場 をお借りしてお礼申し上げます。

本日は限られた時間ではありますが、時間の許す限り皆様と楽しい時間をご一緒できればと存じます。それでは、これをもちまして主催者としてのご挨拶と指せていただきます。





校歌リード、校歌斉唱



物故者弔意黙祷



来賓挨拶 日本歯科大学校友会 会頭 中原 泉先生



来賓挨拶 日本歯科大学校友会 会長 近藤 勝洪先生



来賓挨拶 日本歯科医師連盟 会長 高橋 英登先生



### 来賓挨拶

左 鳥取県歯科医師会 会長 渡部 隆夫先生 中央 日本大学歯学部同窓会鳥取県支部長 樋口 壽一郎先生

右 東京歯科大学同窓会鳥取県支部長 田本 晃先生



鳥取県日本歯科大学校友会 会員紹介



司会進行の大役を担った 専務理事 平林 律 と会場の方々



他13歯科大学、大学歯学部の先生方、ご臨席ありがとうございました。



乾杯 岡山県日本歯科大学校友会 会長 横見 由貴夫先生



各テーブルで記念撮影



各テーブルで記念撮影



皆様それぞれ楽しくご歓談



皆様それぞれ楽しく過ごされました



校友達それぞれのつながりで記念撮影



表彰



花束を受け取り破顔一笑の林名誉会長



いつも通り威風堂々の林名誉会長



万歳三唱 広島県日本歯科大学校友会 会長 森田 行雄先生 閉会の辞 常務理事 八幡 真司



2次会 乾杯 島根県日本歯科大学校友会 会長 吉田 敬 先生



宴は深夜2時まで続きました。皆様ありがとうございました!

# 編集後記

記念誌の校正がすべて終わり、締めの一文をしたためておりますが、林名誉会長をはじめ、会員の皆様の文章力の高さに改めて脱帽…。若い頃から読む、書く、聞く、話すを徹底的に叩き込まれた賜物と心より感謝申し上げます。

故郷東京から鳥取に移住し開業し、そして校友会に入会させていただいてからの日々は、日常生活、歯科医師会も併せて、楽しく、嬉しく、苦しく、悲しく、悔しい思い出が多々入り混じりながらの15年でした。会員の中で、唯一地縁のない他所者の私が一番の心の拠り所にしていたのは家族はもちろんのことですが、なんといっても鳥取県日本歯科大学校友会でした。

一昨年の中国地区役員連絡協議会、昨年の中国地区歯学研修会、そして今回の校友会100周年 事業。たった2年でこれだけの大きなイベントがあった時期が、我が校友会の歴史であっただろう かと顧みると出来不出来は別として、本当に濃厚な2年間でした。

これらの仕事に携われたことは非常に名誉なことであり、今後の人生にも貴重な経験になったと 思っているのは私だけではないことは疑いの余地はありません。多大なエネルギーと長い時間を 費やしましたが、それを補って余りある楽しい思い出、貴重な経験、素敵な出会いができたと思っ ています。

"数より質!"宮崎会長が就任して間もない頃の役員会で誰が発言したかは失念しましたが、その言葉で我々は奮い立ち、ひとつににまとまり今日の佳き記念の日を迎えることができました。 そして先人たちが築き上げた歴史に培われた伝統を再確認し、失われかけた誇りを取り戻し、 次の100年も歩んでいけることを確信したのではないでしょうか?

たったひとつの言葉が人の人生、組織の運命をも良くも悪くも一変させることは歴史が証明しておりますが、私個人の思い出として、中原泉先生(以下学長)との初めての出会いは、今から30年前の4月に、3年生にギリギリで進級して胸をなでおろして間もない時、新学長として新潟から東京に赴任された折、我々をお呼びになり、後にも先にも入室することはないであろう学長室で中原實先生のレリーフの直下の席で憤怒の形相でお掛けになり、我々の学年の成績不良者へのキッ~いお叱りの言葉と最後通告であったことを覚えています。途中からなぜかずっと私の正面に移動され20分ほどお言葉を頂戴したせいか、退出する時にひどい2日酔いが短時間でものの見事に抜けていたことを更に鮮明によく覚えています。(冷汗)

その時のお言葉の内容はさすがに申し上げられませんが、そのおかげで私は一念発起し、紆余曲 折ありましたが、歯科医師となりこの文章を書いています。私の人生の分かれ道を正しい道に導 いていただいたのは紛れもなく学長であり、私の人生の恩人のひとりでもあります。ありがとう ございました。

そして、昨年の歯学研修会で労いのお言葉をいただき、そして今回ご臨席いただいたことは自分の中で万感の思いであり、30年という長くもあり短くもある時を感じさせてくれた瞬間でした。そして改めてあの時の"喝"に感謝申し上げる次第です。そして何よりも喜寿を経て変わらずお元気なことは母校の発展とともに喜ばしい限りです。

学長とは30歳違いなので、30年後の私はどんな壮年になっているのだろうか?また、楽しみがひとつ増えました。まずは来年のジュビリー25でご挨拶できることを楽しみにしています。そして林伸伍名誉会長には前人未到のジュビリー75を目指していただき、これからも長生きしていただきたく思います、

縁あって入会させていただいてから、常に威風堂々で、怒るときは誰よりも怖く、頼みごとをお願いするときは誰よりも頼りになり、優しいときは誰よりも優しかった峻岳のような林名誉会長に読む、書く、聞く、話す、闘うことを13年鍛えられ、親分肌で、人一倍思慮深く、穏やかな海のような宮崎会長に2年育てていただきながらたくさんの景色を見ることができ、経験を積むこと

ができたこと、そして共に歩んだ尊敬する諸先輩方、頼りだった同級生、そしてこれからの校友会を担っていくであろう後輩達にこの場をお借りして心より感謝いたします。特に、硬式野球部の後輩である宮﨑章太(99回卒)をはじめとした90回台の若手の校友の先生方は「後輩は宝」という故事に倣い大切に育てていきたいと思っています。

この記念誌の歴史編纂に多大なご尽力を賜りました日本歯科大学校友会事務局様をはじめ林伸伍 名誉会長はもちろんのこと、貴重な写真をご提供いただきました今田哲哉先生、日本大学歯学部 歯学部同窓会の佐々木晃一先生、中部歯科医師会長の石亀裕通先生。そして県歯事務局と各地区 歯科医師会事務局様、記念誌発行にあたりたくさんのご無理を聞いていただきました日の丸産業 真嶋様、中央印刷財原様、校友会旗新調にご尽力いただきました松本徽章佐藤様に役員一同心よ り御礼申し上げます。そして、ご臨席を賜った皆様にたくさんの感謝の思いを込めてこれからのま すますのご隆盛とご健康を祈念いたします。

式典と祝賀会を振り返るとなんといっても皆様の素敵な笑顔、そして有志5人のエールなどなど沢山の喜びとうれしい思い出、そして、当日も後日も過分なお褒めの言葉をいただき深甚なる感謝の気持ちにたえません。100年の歴史の中でたった一瞬だったかもしれませんが、最大の輝きを放った瞬間であったと確信しています。

宮崎会長、林名誉会長をはじめ偉大な先輩方、素直で愛すべき後輩たちに囲まれた丁度中間である同級生同士の八幡常務理事と私は本当に会員冥利につきた1日でございました。特に後輩の若手3人は校友会のみならず、未来の鳥取県歯科医師会の中でも輝く存在になる可能性を秘めていることを信じてやみません。

最後に、この100年の歴史と全国の校友会の先生方に負けず劣らずの濃厚なキャラクターの会員達の足跡がギッシリ詰まった記念誌が、将来校友会に入会した先生や会員の子弟達に時代が変わっても驚きと笑いを交えてご覧いただけることを楽しみにしながら、そして、紙面の都合上ここには掲載できなかった沢山の思い出話やウラ話や儀式?なども脈々と伝承されることも楽しみにしながら、これをもちまして大変長くなりましたが編集後記とさせていただき、校歌斉唱の前に披露させていただきましたリードの文言を添えてキーボードを打つのを終わらせていただきます。

# 日本歯科大学校歌齐唱100周年記念リード作者不詳

古より、我ら2万と1000の全国津々浦々の校友たらの威風を継承し、 都に、天壌毎窮の光陰を浴す。

その、113年の歴史に培われた伝統と、育まれた文化の上に 九段富士見原と、新潟浜ノ浦に燦然と輝くは、我が日本歯科大学であ る。

いざ高らかに歌わんかな。天下に冠たる日本歯科大学校歌斎唱。 1番から3番まで元気よく。Ein Zwei Dry! 中原会頭をはじめご臨席を賜りました皆様のおかげで完全燃焼できました。本当にありがとうご ざいました。

我らが母校日本歯科大学。そして鳥取県日本歯科大学校友会100周年 万歳!!



1986年より使用した旧校友会旗に中原会頭をはじめ 校友全員のサインを入れた記念旗

新しい校友会の誇りです。今後は歴代の会長が保管します。

### 鳥取県日本歯科大学校友会設立100周年記念誌

発 行 日:令和元年8月23日刊行

発行責任者:鳥取県日本歯科大学校友会 会 長 宮﨑 章

編集責任者:鳥取県日本歯科大学校友会 専務理事 平林 律

印 刷:中央印刷株式会社

